



愛知陸協広報

第27号

平成24年9月30日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

副会長のことば

副会長 村瀬雄一郎

今年の夏も厳しい暑さが連日続き時には落雷や集中豪雨が発生しましたが、皆様はいかがお過ごしでしたでしょうか。

本協会は3月から一般財団法人に移行し、早くも半年が経過しました。現在のところ大きな問題は生じておりません。皆様方のご理解とご尽力に感謝申し上げます。

さて、ロンドン五輪に愛知より5名の選手が日本代表として参加し、ハンマー投の室伏広治君が見事銅メダルに輝きました。日本陸上界で大ベテランの一人ですが、ハンマー一筋に生活のすべてをかけて自らを鍛える姿には頭の下がる思いです。この栄誉は不断の努力が実を結んだものであり、本当にお疲れさまでした。そしておめでとうございます。

他の競技では多くのメダルを獲得しましたが、陸上競技に関しては世界の壁は予想以上に高いものでした。今後、オリンピック・世界選手権などの国際大会で入賞するにはどのようなトレーニングが必要なのかを研究し、また、中長期的な指導・育成に計画的に取り組んでいくことが必要です。関係各位の更なるご努力に期待します。

8月20日にはオリンピックメダリストが銀座でパレードを行ない、50万人を越える人々がその偉業を讃え、熱狂的に拍手を送るニュースを拝見し、スポーツが国民に与える感動、影響の大きさを感じました。

9月から東海学生、県ジュニアオリンピック、県高校新人などが行なわれ、特に10月には全日本ジュニア・ユース選手権大会を開催することになっています。これらの競技会が、役員の方々の献身的なご努力により、意義ある大会になりますようお願い申し上げます。

室伏広治選手銅メダル —ロンドンオリンピック—

第30回夏季オリンピックのロンドンオリンピックは、204の国と地域から約11,000人が参加して、7月27日から8月12日まで開催されました。

地元愛知から参加した選手の結果は下記のとおりです。



室伏広治選手(ミズノ) ハンマー投 第3位 78m71

中村明彦選手(中京大)	400mH	予選失格
山本聖途選手(中京大)	棒高跳	記録なし
中野弘幸選手(愛教大院)	4×400mR(4走)	3分03秒86
市川華菜選手(中京大)	4×100mR(2走)	44秒25

アテネ大会の金メダルに続いて2大会ぶりにメダルを獲得した37歳の室伏選手は、試合後のインタビューで「最後のオリンピック」と語っていましたが、まさに有終の美を飾ることができたと言えます。敬服に値する活躍でした。

他の選手は残念ながら予選を通過することはできませんでしたが、全員が学生、大学院生であり、リオデジャネイロ大会を狙うことができる人たちがばかりです。9月に行なわれた全日本インカレでは、4人とも優勝(中野選手:400m 山本選手:棒高跳 中村選手:十種競技 市川選手:100m、200m、4×100mR)しており、次の大会に向けて一步を踏み出したと言えます。

専門委員会報告

総務委員会

登録者数が9月現在で昨年を1000名超え、過去最高になりました。

特に、中学・高校の増加が目立ちます。今後はロード・駅伝関係で中学生の新規登録が見込まれそうです。

登録数 (24年9月10日現在)

区分	9月10日現在	H23年度
一般	3,295	3,211
高校	7,259	6,724
中学	7,132	6,720
定時制	29	27
大学	835	877
計	18,550	17,559

来年8月に瑞穂陸上競技場で第40回全日本中学陸上競技選手権大会が開催されます。そのため、愛知陸協から専務理事をはじめ10名が、中体連関係者と今年開催の千葉大会を視察しました。今後は中体連と連携し、全国から参加する関係者に満足いただける大会になるよう取り組んでいきます。

現在事務局は、10月19日から3日間開催予定の日本ジュニア・ユース大会の準備に追われる日々です。ロンドンオリンピックでは地元から5名出場し、ハンマー投の室伏選手が、日本人唯一のメダルを獲得し、日本国民に感動を与えてくれました。他の4名は若い大学生なので、今後の活躍が楽しみです。

(稲垣 裕)

競技・情報処理委員会

公認の競技会は「日本陸上競技連盟競技会規則」に従い、競技が運営される。この競技会規則第162条に来年度より大きい変更がある。不正スタートに関する下記のルールを確認いただきたい。

7. [国内：2012年まで] 不正スタートをした競技者には、警告をしなければならない。混成競技を除いて、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者は、すべて失格とする。ただし、本連盟が特に指定する競技会では下記の国際規格を適用する。

【2013年度から本連盟が主催、共催する競技会はずべて国際規則を適用する】

〔国際〕混成競技と道路競走および駅伝競走を除いて、一度の不正スタートでも責任を有する競技者は失格とする。

このように来年度より国内における競技会も国際ルールに従い、一部の種目や競技会を除き、一度の不正スタートでも失格となる。また、現在も県内のほとんどの競技会で英語によるスタート合図が行なわれているが、来年度は新ルールの適用により、さらに英語によるスタート合図の競技会が増加すると考えられる。

新ルールの適用により、スターターや出発係はもちろんのこと、導入当初は不正スタートによる失格者が増加することが考えられることから、情報・記録なども含めて運営

側の準備が必要であると考え。競技者自身や指導者の側でも新ルール適用に備え、正しいスタート方法の習得が重要であることは、もちろんである。

(安田 純久)

施設・用器具委員会

I. 施設用器具委員会報告

7月13日(金)に第1回施設用器具委員会を協会事務所において開きました。各陸上競技場の諸問題を中心に1時間半にわたり情報交換をし、内容の濃い会議になりました。主な内容を報告をします。

出席者

青木、平川、江藤、秦、吉越、釵持、田嶋、伊藤、小山田、太田、澤辺、藤城、中村、篠原

内容

- 1 ルール修正の確認について(青木)
- 2 検定スケジュールについて(青木)
- 3 各陸上競技場の諸問題について

一宮：9m、7mのハンマー用の囲いネットが購入された。来年度以降の公認継続の予算化に向け、青木検定員の事前指導を受けて尾張陸協の要望を県に提出済み。

知多：トラックの全面改修が行なわれ3月に検定が終わった。7月に7mのハンマー用の囲いネットが購入され、第2種公認競技場として、規則どおりになった。刈谷：練習専用ハードルを決めたい。投てき練習禁止で苦情あり。来年公認継続に向けての予算化。

安城：用器具備品の管理が不十分。雨が降ると水はけが悪い。問題点を具体的にクリアする努力をしている。半田：2種から3種に格下げして公認更新ができたが、不十分な所を今後国の補助との関係で整備したい。

豊橋：雨天対策が課題である。静岡の競技運営コンピュータシステムを導入して、記録情報が円滑になった。

豊川：新設3種公認として3月に競技場が完成した。新しい器具・機器の運用に努めたい。まとめ役を養成する必要がある。

豊田：8月に公認継続検定を受ける予定で、ある程度整備できた。知多のようにルールに適合する7mのハンマー囲いを予算化したい。

岡崎：公認継続についての今後の方向性が見えない。県は一応予算化のため、青木検定員の事前指導を6月に受けている。

田原：1月に公認継続の検定をした。写真判定装置の導入を要望している。

瑞穂：大会後の器具の整理が不十分である。特に中学の大会時に多い傾向。お互いに注意し、故障トラブル等はそのままに放置しないで、状況を具体的に用紙に記入して届ける事に配慮したい。ゴールタイマー接続の問題。コンピュータのネットワークの不具合があり、調査した上で予算化することを要望した。

II. 検定報告

①8月4・5日の2日にわたって、豊田運動公園陸上競技場第2種の検定を本部高木検定員と青木検定員の2名で実施しました。夏の温度の高い時の検定は、日の出と同時に開始します。準備はその1時間前からしますが、それでも平均温度26℃で温度補正がなされます。

クラブ紹介② 東浦アスリートクラブ (東浦AC) ~喜びをつかみとれ~

今まで東浦町には片葩小学校の児童を母体とする「片葩アスリートクラブ (片葩AC)」があり、様々な大会で活躍していました。その様子を知った多くの町民から、募集の範囲を広げてほしいという声が高まっていました。そこで片葩ACを発展させる形で、新たに「東浦アスリートクラブ」を誕生させました。このクラブは町内に在籍する小学校3年生～6年生を対象としています。現在は約60名の練習生が在籍しています。

東浦ACでは、陸上競技を通じ目的意識を持たせて達成までの過程の楽しさや達成した時の喜びを伝えています。また、クラブとして活動することにより、学校の枠組みを超えて仲間やライバルを作り、競技選手としてスポーツマンシップを育てる場としています。



ラダーを使った基礎練習

組織は会長、コーチ、保護者会で構成しています。コーチは練習生の指導を行ない、保護者会は会計管理と会報の発行などクラブの運営をし、会長はクラブ全体のとりまとめをします。

毎週土曜日の午前中に、片葩小学校のグラウンドを使用させていただいて練習を行なっています。練習内容は基本



のグラウンドのため今回から第3種から第4種に格下げになりました。

③ナゴヤドームが使用されていない8月10日に「名古屋ウィメンズマラソン」コースの一部変更の検定をしました。ドーム内を直線でフィニッシュさせるための作業をしました。スタートラインを20m後方(正確には温度補正と巻尺恒差計算あり)に修正、またドーム内は人工芝の上を計測しフィニッシュ地点の確定をしました。愛知陸協からは青木と平川、岡本施設用器具委員の3名、マラソン事務局からは國分事務局長・岡本・桑山・北野・宮崎の5名の応援、アールビズからは桑田さん、テツコーポレーションからは森さんのサポートがありました。スタート地点の作業は平日で交通量が多く大変でしたが、スムーズに無事終わりました。今後は各1km地点と給水ポイント・コース閉鎖地点などの修正をすべての場所で実施しますので、よろしくご協力お願いします。

Ⅲ. 検定事前指導の報告

本年度検定予定の第3種瑞穂北陸上競技場の改修についての予算化がされました。名古屋市スポーツ振興課・瑞穂競技場管理事務所・住宅都市局と数回打合せを持ち、愛知陸協として強く要望をしました。その結果、限られた予算の中で、グラウンドレベルでの第3種陸上競技場公認に必要な最低限の条件を保つことができました。しかし現段階

走やラダーを使い、楽しみながら基本的な動きづくりを行なうことから始めます。競技種目練習では自分で種目を選び、「走る・跳ぶ・投げる」の合理的な体の使い方の技術練習を行なっています。

また、一年を通じて練習生は記録用紙「キセキ」に今年目標と大会の結果を記入し、目標を持って自分の成長を実感しながら練習に取り組んでいます。



その結果、今年の夏の愛知県小学生リレー大会では、26名が参加し5種目で入賞することができました。

まだ発足して2年目のとても若いクラブです。練習生の心と体の成長に良い影響を与えられるようさまざまなことにチャレンジしていきたいと思っています。

最後になりましたが、このような紹介の機会をくださった愛知陸協の皆様、クラブ発足にあたりご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

〈東浦ACホームページアドレス〉<http://higasiuraac.web.fc2.com/index.html>

(東浦AC監督 風見 尚)

では、用器具関係の備品についてゼロ査定个回答です。今後、日本ジュニア・ユース大会、全日中大会開催に向け、その対応が重要になってきます。

(青木 実)

審判委員会

平成24年度のトラック&フィールドも秋の大会に入り、各地区で新人戦が行なわれています。大きな大会も、10月の日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会、11月の愛知県小学生陸上競技選手権大会を残すだけとなりました。各審判員の方々にご協力いただき無事進めていくことができました。ありがとうございました。

ロードレースとしては、3月10日(日)のマラソンフェスティバルをはじめとして駅伝、マラソンのシーズンに入ります。各大会には多くの審判員が必要となります。特に、マラソンフェスティバルでは、審判員の負担を少しでも減らしスムーズな競技運営を行なうためにも、第1回以上の審判員が必要です。早朝から大変だと思いますが、是非ご協力をお願いします。

また、平成25年度には、瑞穂公園陸上競技場にて全日本中学校陸上競技選手権大会が行なわれます。中学校の先生を中心に多くの審判員に助けていただき、大会が無事成功するように準備を進めています。資格を持ってみえない方は、この機会に公認審判員の資格を是非お取りください。

B級公認審判資格講習会の2回目を、10月28日(日)に瑞穂公園陸上競技場にて行ないます。1人でも多くの教え子、同僚などに勧めていただき、若い力を育てていきたいと思っています。

今年度は、全日中に向けての講習会を予定しています。案内が届きましたら、特に中学校の先生方には参加をして、審判技術等を身につけていただきたいと思います。

来年度以降も全国大会が続きます。今まで同様に競歩審判講習会や、情報処理講習会、写真判定講習会等も計画していきたいと考えています。詳しいことが決まりましたら、競技会等でお知らせします。

最後に、2点お願いをします。1つは**審判の服装**です。競技者が観客か訳の分からない服装をしている審判員をよく見かけます。特に、教員に多く見かけます。学校での指導と試合での審判との区別をきちんとつけてください。他府県から変わってこられた審判員からは、「愛知はこんな服装でいいのですか？前の県では小さな試合から服装を整えています。そうでないと注意されます」と言われることがあります。観客の側から見ると、「本当に審判員なのか？」と思われ、不審を抱かれても返答ができません。審判と選手への指導を区別してください。もう1点は、審判調査はがきを必ず出すことです。

審判員服装…夏季は白のカッターシャツかポロシャツ(愛知は指定のポロシャツがあります)。グレーのズボンかスカート。陸協指定の青のキャップ型帽子。黒の靴(女性の靴でかかとの高い物はだめです)。胸に胸章を付ける。冬の上着は紺または黒のブレザーになります。

(榊原 茂)

選手強化委員会

平成24年度岐阜国体陸上競技は、10月5日(金)～9日(火)の競技日程で岐阜メモリアルセンター長良川競技場において開催されます。愛知県代表選手団は7月15日、8月7日の強化委員会で原案を作成し、8月8日の理事会で承認されました。(表参照)

国体選手決定の経緯は以下の通りです。

- 1 成年選手…日本選手権入賞選手から決定(リレー枠を除く)
- 2 リレー競技…男女リレーチーム編成の承認とリレー枠選手の推薦
- 3 少年A、共通…新潟インターハイ入賞選手から決定
- 4 少年B…少年B選考競技会、全国上位ランキング選手、新潟インターハイ実績から決定
- 5 その他…ブロック主任から推薦された選手から入賞の可能性のある選手順に決定

県の強化事業に参加している選手を優先しての選考
地区強化委員長、加盟団体から推薦された選手の検討と意見集約

ロンドンオリンピック代表選手選考会の日本選手権には多数の県内所属の選手が挑み、国体種目において9名が入賞を果たしました。その結果本年は成年選手の占める割合が増え、その分少年選手の選考が厳しくなる予想がありました。昨年の岩手インターハイと比較すると、本年度の新潟インターハイでは県勢の入賞者数が減少したことから、入賞選手以外からは、決勝進出者から入賞に届く可能性の高い選手を順に選考しました。成年選手の日本選手権入賞以外からの選考(リレー枠を除く)は古川裕太郎選手(小島プレス)と鈴木亜由子選手(名古屋大)だけでした。古川選手に関しては、県選手権で飯田選手(ミズノ)に勝ったことが選考の決定要因でしたが、選考時期の日本ランキング2位の記録が選考事由となりました。鈴木選手はオリンピック標準を狙える位置まで記録を伸ばし、期待された日本選手権でしたが、残念ながら結果を残すことができませんでした。一昨年の国体2種目入賞実績を持ち、加えて

常に愛知の顔である選手として国体出場を望み、入賞できる選手であることからチーム愛知に迎えました。

成年選手の日玉は何と言っても3名のオリンピック代表です。これらの選手は少年選手にとっては目標とする選手で、“チーム愛知”として競技できる環境は大きな刺激になることでしょう。男女主将は中野弘幸、市川華菜の両オリンピックから選出しました。昨年で最後となった教員枠選手として出場した木村友紀選手(春日井中部中教)が今年は堂々日本選手権入賞で代表入りしたことは嬉しい限りです。もうひとり現役教員選手として日本選手権に入賞し、選考された松本明日美選手(名東高教)は大学4年次に全日本インカレで優勝してから一線を退いて再び現役復帰を果たし、今季自己ベスト記録を更新しました。野田奈央選手(名古屋学院大)は、高校時代に砲丸投で国体に出場してから10年ぶりにハンマー投で代表に再び咲きました。記録がどんどん伸びており、今後は投擲愛知の代表的選手になることが期待できます。走高跳に出場する舟瀬勇太選手(名古屋デジタル)も高校時代に2年連続の出場経験を持ち、初めて成年選手として選考されました。少年選手として国体出場した選手がその後も競技を続け、成年選手として再びチーム愛知に戻ってくるのは理想の構図です。今年成長した成年選手に期待が集まっています。

少年選手で最も期待ができる選手は5000mに出場する平和真選手(豊川工高)。世界ジュニア選手権日本代表であり、今季13.55.64の県高校記録をマークしています。ケニアからの留学生が上位を占めるインターハイで堂々3位に入賞しており、国体では優勝が期待できます。二宮聡史選手(岡崎北高)は高校1年生で少年男子B走幅跳で3位入賞した実績を持ちます。千葉国体の回想を当時の広報から抜粋しました。

下位入賞数が多かった愛知の中で最高順位となった種目は男子少年B走り幅跳びです。この種目で選考されたのは1年生でインターハイに出場した野元選手(岡崎北)。ところが、野元選手が腰痛で出場ができなくなり、大会1週間前に急遽選手変更を余儀なくされたのです。“ピンチジャンパー”として指名した選手は同じ岡崎北高校所属の二宮聡史選手。県新人で優勝し、絶好調であったことが選考理由です。国体選手合宿参加もなく、慌ただしい代表選出から現地入りし、1回目の試技で予選通過しました。同僚の野元選手の愛知ユニフォームを着てピットに立った決勝では果敢に攻めた跳躍で見事自己ベストで3位入賞、本県最高の順位を残しました。「愛知のためでもなく、野元のためでもなく、自分のために与えられたチャンスを活かせ」送りだした言葉通りの大健闘でした。無念だった同僚の野元選手と競い合って愛知のブロードジャンプを牽引してもらいたいと願います。

言葉通り愛知の走幅跳を牽引した2名の選手は揃って新潟インターハイの決勝に進み、入賞した二宮選手は代理選手ではなく、選考選手として2回目の代表入りを果たしました。

女子少年選手の注目は丹羽愛利彩選手(愛工大名電)。昨年の7月に陸上デビューして以来僅か1年でインターハイ優勝候補までに駆け上がりました。驚異的な後半のスピード持続力が特長で、200mでインターハイ3位となりましたが、100mにおいても僅かな差で決勝進出を逃し

学校紹介⑰ 千種高等学校 公立高校の雄

今回は、現在県内の公立高校で最も実績を挙げている千種高校を訪問しました。春の県総体では、女子がトラックの部で2位、総合でも4位に入賞しています。今年のインターハイには、いずれも女子ですが、800m、3000m、5000mWの3種目に3名が出場し、競歩の加藤選手は決勝進出を果たしています。駅伝でも今年の女子の目標は、県高校駅伝の2位。来年の記念大会で、東海地区のプラス枠を獲得することを見据えての目標です。こうした高い実績を挙げ、高い目標を掲げられる裏には必ず理由があります。顧問の高橋直之先生、柳澤祐史先生への取材や練習を見て得られたものを、紙面の許すかぎり紹介します。

一つめは、何と言っても部員数です。私立の強豪校の中には3学年で100人を越えるような学校がありますが、そうした学校にも引けを取らない3学年82名は、公立高校の中では最高の数ではないでしょうか。数は力と言いますが、互いに競い合うことで自ずと力がついていくように思われます。高橋先生のお話では、長距離が男女ともにA、B、Cのグループ別に設定タイムを設けて練習が行なわれているとのことでした。それほどにメンバーがいるのです。短距離でも、女子の4×100mRのBチームが県大会を狙えるほどのタイムを出しています。

これほどに部員がいると統率するのが難しいように思われますが、そこには他校にはないような体制が存在していました。それが一日パート長です。それぞれのパートにパート長はいるのですが、その日その日の練習においては一日ごとに指示を出す人が交代して部員を引っ張って行くのです。この体制の中で、選手は自主性と責任感を自然と身に付けていくと高橋先生はおっしゃっていました。長距離部員が県の合宿に参加した際には、中学生を指導したり、自分よりも持ちタイムのよい他校の選手を引っ張ることがあると高橋先生はおっしゃいましたが、それもこの体制の中で培われた力があるからこそできることなのでしょう。

練習は全く無駄話がなく、ほとんど休憩もはさまない形で行なわれていました。よくここまで追い込みながらできるものだなと思い、このことについて高橋先生にお話をしてみると、練習内容を自分たちで考えていることが大きな要因ではないかとの答えが返ってきました。何曜日に追い込みの練習をするかといった大きな流れだけを先生が指示しておいて、その流れの中でその日その日の練習内容は部員自身が考えるのです。昼休みに各パートから出された練習内容を高橋先生がチェックし、部員との間で修正を加えてメニューが決まるのだそうです。自主性と責任感は、練習内容を自らの手で作る場所から既に養われているように思われました。自分たちで決めた練習内容だからこそ、練習が受け身ではなく、攻めの形になっているのでしょうか。非常に充実した、中身の濃い練習が行なわれていました。ただし、練習中は厳しい表情を崩さない部員たちでしたが、練習後は一転して和気藹々。アイシングやマッサージをする姿は、見ていてほほえましくなるほどでした。高い目標に向かって練習する中で、自然と部員どうしの絆が強くなっているのだと思われました。



和気藹々とアイシング



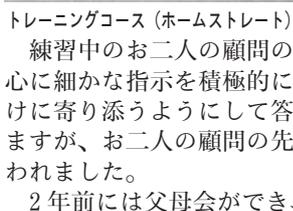
故障者も真剣に

一方、残念ながらどこの学校でも起こり得ることで、故障して他の部員と一緒に練習できない部員も見受けられました。しかしこの人たちがまた時間を無駄にすることなく、部活の時間中ずっと、体幹トレーニングやバイクこぎなどを続けていました。そうした部員たちに尋ねてみると、やはり練習内容は自分で決めて行なっているとのことでした。故障中でもやれることを探し自分でメニューを組み立てる、この中にも自主性、主体性を重んじる千種高校のありようが現れているように思われました。

人数のことで言えばもう一つ、マネージャーの多さも記しておかなければなりません。私などはマネージャーに与える仕事を考えると各学年2人までと思うのですが、千種高校では上記のようにグループ別のタイム設定で練習が行なわれる場合には数多くの補助が必要となります。先生からの指示で動くという形ではない体制の中ではまた、マネージャーの存在が重みを持つでしょう。7人のマネージャーが休む間もないと言っていいほどこまめに活動していました。



マネージャー軍団



トレーニングコース (ホームストレート)

二つめには、施設のことを挙げておかなければなりません。千種高校には1周370mのトレーニングコースがあり、中長距離や400m系統の選手にはとても有用な施設となっています。名古屋市内の中学校、高校の多くがお気の毒なほど狭いグラウンドの中で練習を重ねている中では、特筆すべき施設だと言ってもいいでしょう。ただこれももともと存在していたのではなく、高橋先生が赴任されてから設定されたものだということでした。他の部と折衝して、他の部に不利になることがないように工夫をされたのだそうです。この工夫がトレーニングの効果を大きなものにするとともに、中長距離の選手が車が頻繁に行き交う敷地外の道路を走る危険も無くすることができたとのことでした。



トレーニングコース (バックストレート)

練習中のお二人の顧問の姿は、人柄からなのでしょう。高橋先生はフォームの修正を中心に細かな指示を積極的に与えておられました。柳澤先生はフィールド内で選手の問い掛けに寄り添うようにして答えておられました。部員の主体性を重んじる千種高校ではありますが、お二人の顧問の先生の暖かな眼差しの中に部員たちは包み込まれているように思われました。

2年前には父母会ができ、保護者の後押しも成果につながっているようです。柳澤先生が担当なさっているとのことでしたが、高橋先生が夢見ておられるように、お揃いのTシャツを着た一団がインターハイの場で、そして都大路で、声援を送るといった日が近いうちに来るかもしれません。公立高校の雄千種高校が、これからも愛知の牽引役であり続けることを期待しています。

(取材・文責 大西敏功 写真 柳澤祐史先生)

た選手です。無限の可能性を秘めた選手として出場するチーム愛知には目標とする市川選手がいます。近い将来市川選手を脅かす存在になるかも知れません。少年女子B100mHで活躍して来た萩原加奈子選手(豊橋南高)は今年から少年A選手として3回目の代表入りを果たし、3回目となる連続入賞を目指します。

昨年の山口国体で男子の総合得点は第1位でした。男女の総合順位で表彰される国体には男子だけの総合順位は存在しませんが、確実にチーム愛知は進化しています。国体代表選手は名実ともに愛知県で1番の選手で、県の顔です。これらの選手が県代表に成長するまでには多くの関係者のご指導・ご支援があったことを選手、コーチ共々認識し、岐阜国体では競技してきます。近県での開催であることから、是非これまで以上のご声援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年度 第67回岐阜国体陸上競技選手団一覧表

*数字は代表回数

No.	種別	種目等	氏名	所属
1	団長	強化委員長	北村 肇	中京大中京高
2	監督	強化副委員長	森谷 晴彦	名古屋高
3		短距離コーチ(兼)	明星 光信	豊田高
4	コーチ	中長距離コーチ	渡邊 正昭	豊川工高
5		障害コーチ	鈴木 潔	八幡中
6		競歩コーチ	斉藤 喜夫	名鉄
7		跳躍コーチ	寺島 貴	瑞陵高
8		投擲コーチ	山本 雅司	名古屋大谷高
9		女性部会強化担当	佐藤 悦子	時習館高
10	マネージャー	総務	伊藤 明久	愛知商高
11			占部 輝之	岩倉総合高
12			小林 諭	富田高
13			小田垣充雅	名女大高
14	トレーナー		井上 直生	T.S.S.T.T
15			伊藤 怜奈	T.S.S.T.T
16	成年男子	100m・400mR	屋貝 博文(③)	中京大
17		400mR	西垣 佳哉(②)	法政大
18		400m・(400mR)	中野 弘幸(③)	愛知教育大院
19		10000mW	木村 洋介(②)	順天堂大
20		110mH	古川裕太郎(初)	小島プレス
21		400mH	中村 明彦(初)	中京大
22		走高跳	舟瀬 勇太(③)	名古屋デジタル
23		走幅跳	木村 友紀(②)	春日井中部中 教員
24	ハンマー投	久保 浩司(⑤)	中京大クラブ	
25	成年女子	100m・400mR	市川 華菜(④)	中京大
26		400mR	前川 奈央(④)	都留文科大
27		5000m	鈴木亜由子(④)	名古屋大
28		10000mW	占部 磨美(②)	三菱自動車岡崎
29		走高跳・(400mR)	松本明日美(④)	名東高 教員
30	ハンマー投	野田 奈央(③)	名古屋学院クラブ	
31	少年男子A	100m・400mR	長田 拓也(初)	豊川高
32		5000m	平 和真(初)	豊川工高
33		110mH・(400mR)	古元 翼(②)	名古屋高
34		走幅跳・(400mR)	二宮 聡史(②)	岡崎北高
35	少年男子共通	5000mW	山田 康太(初)	愛知高
36		走高跳	中村 仁(初)	名古屋大谷高
37		円盤投	小出 拓実(初)	名古屋高
38	少年女子A	100m・400mR	丹羽愛利彩(初)	愛工大名電高
39		100mH・(400mR)	萩原加奈子(③)	豊橋南高
40		走幅跳・(400mR)	浅井 真子(②)	光ヶ丘女子高
41	少年男子B	200m・400mR	村瀬 翔太(初)	中京大中京高
42		走幅跳・(400mR)	渡邊圭一郎(初)	中京大中京高
43	少年女子B	200m・400mR	伊藤 南侑(初)	豊田高
44		1500m・(400mR)	鷺見 梓沙(初)	豊川高

(北村 肇)

記録委員会

記録の整理(ランキング)は暦年です。愛知では1月3日の新春ロードが1年の始まりです。今はトラックシーズンの最中ですが、大盛会のうちに終了した3月のウィメンズマラソンの2013年大会の募集がもう始まっています。4月から全国大会を目指した中学生、高校生の熱い戦いも8月下旬の全日本中学校選手権で終わりました。ジュニアオリンピックを目指す競技会や来年の東海大会、全国大会を目指す新人大会が始まり、10月には国体、各地区陸協選手権でトラックシーズンが終わります。記録委員会が扱う60の競技会のうち、多くは各地区の競技会です。各地区の記録委員長を中心に、各競技会の記録担当委員の協力により報告のあった競技会は、期間に遅れることなくかつ問題もなく公認記録として申請が完了しました。

8月は、1月から8月までの各競技会の整理済みの記録の再チェック、「県外出場報告書」によるチェックと入力済みランキング用をプリントし、各競技会のリザルトと照合します。約10日をかけ入力漏れ、訂正修正等をチェックするのですが、これは年末のランキング表作成の事前準備でもあります。ここ数年、県外競技会への出場が多くなっています。出場報告のない競技者がかなりありますので、必ず報告してください。また、HPで確認できない競技会もあります。できれば記録表とか確認できる資料を添付してください。

2012年の記録集については、小学生の保護者からの要望もあり、5傑から10傑への変更の準備をしています。

◎広報第26号以降、確認した県記録等

愛知新記録

男子

200m 20.85 (+1.1) 屋貝 博文(中京大)

第65回西日本学生対校(西京極)7月8日

棒高跳 山本 聖途(中京大)

5.50 平成24年度第2回中京大土曜競技会(中京大)5月26日

5.50 2012日本学生個人選手権(平塚)6月24日

5.62 第65回西日本学生対校(西京極)7月6日

5.50 第72回愛知選手権(瑞穂)7月15日

女子

10kmW 47.10 占部 磨美(三菱自動車岡崎)

第96回日本選手権20kmW(六甲)2月19日

愛知高校新記録

男子

5000m 14.00.31 一色 恭志(豊川高)

14.00.93 服部 弾馬(豊川高)

平成24年度第2回静岡長距離強化記録会(小笠山)6月23日

13.55.64 平 和真(豊川工高)

第65回全国高等学校総合体育大会(新潟)8月1日
(岡田 武彦)

女性委員会

第9回愛知レディース陸上競技大会

本年度は、愛知県教育委員会・(財)愛知県体育協会にご後援をいただき、6月30日(土)・7月1日(日)に開催しました。参加者は、のべ998名(内訳 中学8種目で515名、一般高校14種目で308名、共通2種目で個人種目8名、リレー1種目29チーム)にのぼり、過密なタイ

ムテーブルになりました。大会1日目は曇り、2日目は雨であいにくのグラウンドコンディションでしたが、5種目で11個の大会新記録が生まれました。

本大会は、多数の選手の皆さんに参加していただき、それぞれの掲げる目標記録に挑戦する場にさせていただきたいと考えます。しかし、愛知混成競技会・愛知リレー選手権大会等との同時開催という事情から、参加標準記録をあげて参加者数をコントロールしなければいけない現状があります。この点については、来年度以降も大変苦慮するところです。最後に、本年度も優勝者への花束をご提供くださったミルキーウェイさん(名古屋市中区栄・生花店)に心より感謝を申し上げます。(脇田 千鶴)

各地区報告

名古屋地区陸上競技協会

名古屋地区のこれからの課題

①ジュニア選手強化普及について

名古屋地区内の全国高校総体出場者は男子27名と女子15名でした。そのうち以下の男子9名と女子1名が活躍をして入賞を果たしてくれました。

110mH 4位の名古屋の古元 翼、5000mW 7位の愛知の山田康太・8位及川文隆、4×400mR 6位の名古屋大谷の木屋川内浩仁・川野直哉・金宮圭祐・宮崎海悠、八種競技6位の名古屋大谷の青山耕也・7位の名城大附平林卓磨、200m 3位の愛工大名電の丹羽愛利彩。また、全日本中学選手権出場者は男子5名と女子14名でした。そのうち上位入賞者は、男子100mH 5位と四種競技6位の有松の深谷隼斗、女子100m 5位の栄の掛川 葉が活躍してくれました。

②全国規模の大会への審判出席増加と審判技術の向上の研修について

日本ジュニア・ユース大会(10月)、マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2013大会(3月)、瑞穂陸上競技場での第40回全日本中学校選手権(8月)開催に向けて、名古屋地区の審判員の多数の出席をお願いして技術の向上を図りたいと思います。9月の理事会で具体的に審判員の参加について議論しました。また、本陸の改修は、日本選手権開催・誘致による追い風しいですのでご協力をお願いします。(理事長 青木 実)

③全日本中学選手権に向けて

今年も新潟での全国高校総体、千葉での全国中学生選手権が終了しました。県を代表して出場した選手、監督の皆様たいへんお疲れ様でした。

全国大会という大きな舞台を踏むことができた選手にとっては貴重な体験であったことと思います。しかし、たとえ全国大会には出場できなかったけれども地区の大会や支部の大会ですばらしい支えとなって頑張ってくれた選手や補助員諸君の活躍も忘れてはならないと思います。瑞穂陸上競技場では、行なわれる多くの試合において、8時過ぎの開門と同時に大会に出場する選手と補助員が一緒になってテントやマットの準備やフィールドのライン引きなどにあたってくれています。投擲種目においては競技が終了すると同時に、出場した選手が片付けを手伝うなどのす

ばらしい光景を何度も見てきました。本当に頭が下がります。さて来年は、愛知県で全日本中学生選手権が開催されます。選手強化は順調に進んでいることと思いますが、先日の瑞穂での試合を見ていて少し心配になったことがあります。それは競技マナーの問題です。たとえば競技開始前の練習についてみると、使用したハードルをそのまま片付けずに引き上げてしまう選手がいたり、スターターが『セット』の声をかけているのに、スタンドからは大きなおしゃべりが聞こえたりと気にかかることが多くありました。全国各地からくる選手に「名古屋での試合はよかった」と心に残る大会づくりを、今からみんなで心がけていきましょう。(副理事長 砂子間英明)

尾張陸上競技協会

今年度上半期においてはオリンピックブームという事情もあってか、各競技会での参加人数の増加、競技場への観客、応援者、サポーター(OBも含む)の増加といった喜ぶべき現象が起きていたように思う。まず競技者増については、下表に5年間の競技者登録数を挙げたので参考にさせていただきたい。新しい競技場の完成(平成21年4月)に歩を合わせるように数の増加が見て取れる。また応援者やOB等の状況については、一つには小学生、中学生の参加する競技会において保護者やその関係者の競技への関心の高まりを反映した結果の増加も挙げられる。子どもたちの成長に親としての喜びや期待といった良い感情が生まれることはとても素晴らしく、そして貴重なものだ。

特に日本が震災といった大きな災禍を受けた後でもあり、家族感情が緊密にまた絆の再構築といったような内的力学が働いているのかも知れない。

尾張陸協管轄下の競技者・審判委員登録者数の推移

(H20～24年)

一般	競技者			審判員			合計	増加率 (H20-100%)
	男	女	計	男	女	計		
H20			132			114	246	
H21			184			113	297	20.7%
H22			190			100	290	17.8%
H23	214	46	260	85	9	94	354	43.9%
H24	245	54	299	88	12	100	399	62.1%
高校	競技者			審判員			合計	増加率 (H20-100%)
	男	女	計	男	女	計		
H20	693	437	1130	0	0	0	1130	
H21	704	433	1137	0	0	0	1137	0.1%
H22	806	460	1266	0	0	0	1266	12.0%
H23	876	457	1333	0	0	0	1333	17.9%
H24	965	508	1473	0	0	0	1473	30.4%

ただ競技会場では一部マナーや約束事が徹底しない状況も生まれつつある。一宮総合運動場陸上競技場は比較的競技場内への立ち入りが容易で、制限も多くないのが現状である。そのため競技中のトラックやピット付近まで保護者やOBが競技現場に近づいて応援やビデオ・写真撮影などをしてしまい、たびたびの呼びかけも功を奏さない状況が生まれている。

今後の課題として応援のしかたや競技場の利用法等マニュアルを徹底して、理解を求めていかなければならないだろう。そのためには一つの方法としてわかりやすいパンフレット等を作成し、視覚と良心に訴える必要があるのかも知れない。喫緊の課題だ。

上半期のビッグニュースとなるのは、全国大会へ当地区の高校生、中学生が多数出場したことである。IH新潟大会へは一宮西、一宮、江南、津島から合計11名、日本ユース陸上選手権大会(金沢)の競歩部門に一宮西、津島北から合計3名。また全国中学校陸上選手権(千葉)には大治、木曾川、扶桑から合計3名。誠にありがとうございます。

下半期は尾張陸協のメインイベントの尾張陸上選手権大会(10月)、尾張駅伝(1月)が控えている。地区の大会に甘んずることなく、さらに高みを目指して一步一步大きな夢と可能性に挑戦していただきたい。

(原川 豪)

西三河陸上競技協会

この夏は、愛知県からロンドンオリンピックへ出場した5名の選手の話に沸きました。5名とも西三河地区の出身であり、特に室伏広治選手の銅メダル獲得は、日本中の陸上競技関係者に感動を与えました。経年の身体の変化に対応しながらトレーニング方法を工夫し勝ち取った功績に敬意を表します。

中京大学の中村明彦・市川華葉・山本聖途選手は、岡崎城西高校の出身であり、また、愛教大院の中野弘幸選手は安城市の出身です。7/13のオリンピック出場決定以来出身校はもとより、各市も大変な盛り上がりでした。結果は実力を十分に発揮できず予選敗退と残念でした。しかし年齢的に若い選手ですので、今回の貴重な経験・悔しさを今後の競技生活に生かして次回のオリンピックでは、世界に通用する実力を身につけ再度チャレンジしてくれると信じています。

今回の快挙に、地区の陸上競技に携わる者として大変感謝いたします。

地区の選手にとっては、おそらくオリンピックは遠い夢の存在だったと思いますが、各大会・陸上教室等で顔見知りの先輩達のオリンピック出場に刺激され、後輩たちも更に奮起してくれると思っています。

新潟インターハイには近年には無い18種目(男10女8)という多くの種目で出場しました。上位入賞の期待をされる中、走幅跳で4位の浅井真子(光ヶ丘女子)・5位の二宮聡史(岡崎北)・8位の酒井瞳味(岡崎城西)と、西三河地区の跳躍の選手・スタッフのレベルの高さを証明(男女で延べ跳躍10種目参加)してくれました。

今回のインターハイや東海総体で失敗した選手の中にも1・2年生が多く含まれていますので、来年度は今年度以上の飛躍を期待しています。

毎年入賞している全日中・全国小学生陸上では、今年も入賞者を出すことができました。

現在、岡崎の県営総合運動公園の存続が危ぶまれています。署名活動などで県へお願いしてありますが、特に中学(駅伝を含む)の大会において支障を来します。それに今回オリンピックに出場した5選手が、中学時代に活躍した記念すべきグラウンドでもあります。是非存続・改修をお願いしたいと考えています。

(柴田 和秀)

東三河陸上競技協会

今年度の上半期最大の話題は、豊川市陸上競技場が全天候型に全面改修され、公認の競技場に生まれ変わったこと

です。そして、4月21日の駅伝強化第1回豊川長距離競技会、7月22日の東三河中学校総合体育大会と2つの公認競技会が実施されました。東三河中学校総合体育大会では、5種目で6つの大会新記録が出て選手にも好評でした。9月22日には駅伝強化第2回豊川長距離競技会が開かれ、10月26・27日の東海学生秋季選手権大会も予定されており、好記録が期待されます。

次に、上半期の東三河勢の活躍について触れたいと思います。高等学校では、新潟県で7月29日～8月2日に行なわれた全国高等学校総合体育大会に、4校から個人のべ13名とリレー2チームが出場を果たしました。そして、男子5000mで豊川のカレミ・ズク君が優勝し、豊川工業の平 和真君も3位に入賞しました。また、男子3000m障害でも豊川工業の成瀬雅俊君が8位に入賞しました。女子では、豊橋南の萩原加奈子さんが100mHで3位に入賞しました。

中学校では、千葉県で8月20日～22日に行なわれた全日本中学校陸上競技選手権大会に、6校から6名の選手が出場を果たしました。

小学校では、神奈川県で8月24・25日に行なわれた全国小学生陸上競技交流大会に、豊橋陸上クラブの米重美紅さんが6年100m、田原陸上クラブの成田朱花さんが走高跳、同じく平松琴美さんが走幅跳に出場を果たしました。

(兵藤 重二)

関係団体報告

小学生友の会

6月24日(日)に瑞穂公園陸上競技場にて第28回全国小学生陸上競技交流大会愛知県予選会(第29回愛知県小学生リレー競走大会)が行なわれ、8月24・25日に神奈川県の日産スタジアムで行なわれた上記大会の愛知県代表として、以下の選手が参加しました。入賞者は()内に順位が記してあります。

男子

5年生100m	鳥居 洋介(安城JAC)
6年生100m	大野 秀哉(TSM)
共通80mH	藏田 源貴(なごや陸上クラブ)
共通走高跳	榊原 圭悟(成岩SC陸上)
共通走幅跳	中村 伊吹(JACとよあけ)
共通ソフトボール投	藤井 瑞樹(鬼南クラブ)
4×100mR(2位)	安城JAC

(朝倉拓海・松下隆之介・戸田健太・ダニエル河内・野々山開)

女子

5年生100m(4位)	竹崎 郁乃(安城JAC)
6年生100m(5位)	米重 美紅(豊橋陸上クラブ)
共通80mH(5位)	蛭川 真未(成岩SC陸上)
共通走高跳	成田 朱花(田原陸上クラブ)
共通走幅跳	平松 琴美(田原陸上クラブ)
共通ソフトボール投(3位)	高田 爽矢(成岩SC陸上)
4×100mR(6位)	安城JAC

(畔柳幸奈・浅岡陽名・池田美琴・成瀬汐七・宮川愛海)

(石田 伸)

中小体連

千葉全中を終えて

8月20日(月)～22日(水)の3日間、千葉県総合スポーツセンターにおいて、第39回全日本中学校陸上競技選手権大会が開催されました。本県よりのべ53名の選手が参加しました。

入賞者の紹介をします。男子200mで8位入賞を果たした大崎慎平君(安城南)は、4×100mRの第4走者としても活躍し、本大会男子短距離を通じて愛知唯一の入賞選手として素晴らしい走りを見せてくれました。男子1500mで飯島康介君(西浦)は5位入賞を果たしました。3000mでは決勝に駒を進めながらも16位と悔しい結果となり、その翌日に臨んだ1500m。決勝ではスローなペース展開となりましたが、最後まで先頭争いに加わり、素晴らしい粘りの走りを見せてくれました。男子四種競技では、深谷隼斗君(有松)が6位、大浦優汰君(六ツ美)が7位とダブル入賞を果たしました。深谷君が得意のスプリント種目で、大浦君が得意の砲丸投で得点を伸ばし、それぞれの持ち味を十分に生かして競技をすることができました。深谷君は110mHでも、最後まで3位争いに加わる素晴らしいレースを見せ、見事5位入賞を果たしました。2種目出場、2種目入賞という偉業の達成です。女子100mでも掛川菜さん(栄)が5位、中野真琴さん(豊橋東部)が7位とダブル入賞となりました。共に全国ジュニアオリンピックCクラス100mのチャンピオンであり、実力のある選

手です。常に注目を浴びてきただけに、プレッシャーも相当なものがあったと思われます。そういった中でのダブル入賞はとても価値が高いと感じます。入賞した選手のみならず、おめでとうございます。

ここ数年の愛知の全中参加人数は、2009年大分大会69名、2010年鳥取大会66名、2011年奈良大会49名、2012年千葉大会47名となっております。本年度は、参加標準記録突破のチャレンジとなる県大会での風のコンディションが悪く、男子の100mでの突破者0名をはじめ、各種目で苦戦を強いられました。風のコンディションがよければ、あと10名程度は標準記録を突破したものと思われます。47都道府県別参加人数では、①兵庫124名、②千葉117名(地元枠含む)、③神奈川97名、④埼玉78名、⑤静岡・福岡72名、⑦大阪67名、⑧東京58名、⑨京都48名、⑩愛知47名となります。県人口、競技者数、学校数からしても、また近年参加者数を伸ばしてきている栃木46名、群馬45名、新潟41名などの結果を見ても、愛知はもう少し参加者数を伸ばせるはずですが、本年度の入賞数は男子5、女子2でした。減少した昨年よりもさらに少ない入賞となりました。このような現状を改善するにはどうしたらよいか…。昨年この紙面で触れましたが、全中参加を目標とするのか、全中に参加した上で上位入賞を狙うのか、この意識の違いが結果に出ているように感じます。結果を残している県の選手強化の様子を伺うと、各所属、各指導者の意識が相当高いと感じます。これは県全体の選手強化ということではなく(もちろんそういう側面もあり

ホープさん ㊴

驚見 梓沙選手(豊川高校 1年)



徹底した体幹補強

私が彼女に初めて会ったのは彼女が小学校の頃でした。私は豊川高校で監督をする前は豊明市にある沓掛中学校で陸上の指導をボランティアでしていました。中学では3年間指導をしていましたがその3年目に入学してきたのが彼女の姉でした。そこで、妹にあたる梓沙の存在を知りました。彼女の走りは美しい走りとはほど遠いものでしたが、ダイナミックな走り方とスピード能力の高さに光るものを感じました。「この子は絶対に速い選手になる」自然とそう感じました。そのカンに答えてくれるように中学でも彼女はグングン成長し、中学3年の全中では1500m5位入賞、ジュニアオリンピック3000m出場の経験をもっています。今年4月に本校に入学し、親元を離れ寮生活を始めました。普通は新しい環境や生活リズムに慣れるのが精一杯になってしまうところですが、彼女は中学時代から今と同じような生活リズムをしていたのでとまどう時間も少なく上手に慣れることができました。そのため入学後、ベストタイムを出すのに時間はかかりませんでした。高校総体予選には1500mに出場し、地区・県・東海とベストタイムを徐々に更新しながら、東海では1年生とは思えない粘りで優勝を勝ち取りました。高校初となる全国舞台のインターハイでは予選で4分22秒の自己ベストを出し決勝にコマを進めましたが、決勝にモチベーションを合わせることができず走るだけの経験のレースとなってしまいました。しかし、強豪揃いの全国の舞台の決勝のスタートラインに1年生で立つことができたというのは彼女にとって大変大きな経験だと思います。決勝後の彼女の悔しそうな表情と大粒の涙を見て、「この子はまだまだ上が目指せる」「無限の可能性を持っている」そう感じました。

今シーズンの彼女の主な競技実績は、6月に行なわれた静岡長距離記録会で3000mに出場し9分29秒の自己ベストを出したことです。まだ入学して約半年ですが、今後がすごく楽しみな選手です。彼女の学年には他に3人の生徒が入学していますが、そのうちの2人が中学時に9分30秒台の記録を出しています。身近にそんな仲間がいるということは何よりも強みです。仲間は常に友でありライバルとなるのでみんなで切磋琢磨しあって上を目指していけたらいいと思います。彼女の日常生活はとてもマイペースですが、練習に対する意欲や集中力は群を抜きます。日常と練習のメリハリこそが彼女の成長のポイントであると思っています。今後も彼女の良い所を大切にしながら、彼女に秘められた無限の可能性を引き出していきたいと思っています。



リラックスした走り

(豊川高校監督 森 安彦)

ますが)、それぞれの学校レベルでの指導の話です。選手に対してより高く、より明確な目標を持たせて指導する若い指導者が増えてほしいと感じます。そのためには、まず全中そのものを経験してほしいですし、選手がいなくてもまずは見て(観戦して)みようと思うことが大事ではないでしょうか。若い指導者の先生方の奮起に期待しています。また、戦い方として、予選、準決勝、決勝と次のラウンドを見据え、実力を出し切っていくタフさがまだ足りないように感じます。二日で3本のレースを想定して戦い方を組み立てたり、フィールド種目で予選を突破し、翌日の決勝で勝負することを想定したりするといったことが大事になってくると思います。そもそも力がなければどう戦っても同じかもしれませんが、少しでも持てる力が発揮できるように、選手・指導者で工夫していくことが大切な気がします。県総体を二日間開催にし、トラックに準決勝を取り入れ、フィールドに予選ラウンドを組み入れたのには、そういった点の強化につながればという思いがあります。

毎年、全中に県の監督として参加し、選手や競技を見つめてきて感じてきたことを率直に、前向きな気持ちでまとめつつもります。ずいぶん生意気なことを言いましたが、中学生の活躍が愛知県の選手強化につながっていくと確信しています。みなさまの力を結集して、来年の愛知全中に向けて選手強化においても、競技運営においても、一丸となって取り組んでいけたらと思いますので、今後ともお力添えよろしくお願いいたします。

第39回全日本中学校陸上競技選手権大会(千葉大会)愛知県選手団結果一覧(男子) ○数字は順位を示す

氏名	学年	所属	種目	予選	準決勝	決勝
大崎 慎平	3	安城南	200m	22.87	22.53	⑧ 23.45
大澤 京介	3	御幸山	400m	52.39	—	—
斎藤 光希	3	小坂井	400m	52.81	—	—
大崎 創	3	大治	400m	52.92	—	—
山崎 尚信	3	富士	800m	2.02.70	—	—
飯島 康介	3	西浦	1500m	4.07.57	—	⑤ 4.10.37
			3000m	8.48.81	—	⑩ 9.02.48
三輪 軌道	3	東港	1500m	DNS	—	—
			3000m	8.46.82	—	DNS
佐藤 敏也	3	木曾川	1500m	4.09.43	—	—
			3000m	8.53.83	—	—
内山 将志	2	五並	1500m	4.15.04	—	—
米山 遼	3	上郷	1500m	4.15.35	—	—
深谷 隼斗	3	有松	110mH	14.68	14.88	⑤ 14.61
			四種競技	14.87 [865] 1.60 [464] 11.41 [571]	走高跳 400m 51.65 [740]	⑥ 2640点
			久我 敏基	3	豊橋南部	110mH
河合 宏哉	3	武豊	走高跳	NM	—	—
藤田 刀夢	3	逢妻	棒高跳	NM	—	—
大浦 優汰	3	六ツ美	四種競技	110mH 16.02 [730] 13.56 [701]	走高跳 400m 54.73 [610]	⑦ 2626点
			大崎 慎平	3	安城南	4×100mR
足立 智彦	3	①足立 智彦	①足立 智彦	—		
大参 祐輝	2	②大参 祐輝	②大参 祐輝	—		
丸山 拓也	2	③丸山 拓也	③丸山 拓也	—		
黒川 竜也	3	④大崎 慎平	④大崎 慎平	—		
川村 駿	3	—	—	—		

(女子) ○数字は順位を示す

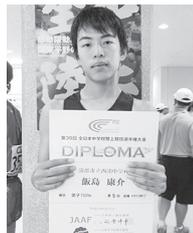
氏名	学年	所属	種目	予選	準決勝	決勝
中野 真琴	3	豊橋東部	100m	12.73	12.92	⑦ 12.59
			200m	25.57	25.43	—
掛川 栞	2	栄	100m	12.75	12.62	⑤ 12.42
杉浦 七海	3	東山	100m	13.03	13.02	—
浜田 奈子	3	高浜	100m	12.92	—	—
菅嶋 悠乃	3	扶桑	200m	25.95	—	—
松本 扶弥	3	矢作北	200m	25.78	25.85	—
鈴木 瑞希	2	扇台	100mH	15.16	—	—
吉田 奈生	3	愛知淑徳	100mH	14.89	14.86	—
北野喜里帆	3	愛知淑徳	100mH	14.90	14.94	—
中西 美早	3	豊川西部	走高跳	NM	—	—
金城 柚花	3	鶴城	走高跳	1.57	—	—
榊原至佳子	2	成岩	走高跳	1.57	—	—
佐々木悠里	3	大府	走高跳	NM	—	—
中根 萌	2	西尾東部	走高跳	NM	—	—
山佐 氷貴	3	大高	走高跳	NM	—	—
加藤 彩	3	城北	走高跳	NM	—	—
浅井さくら	2	城北	走高跳	1.57	—	—
梶野 香子	3	昭和橋	走高跳	1.57	—	—
明星 光	2	猿投	走幅跳	5.27	—	—
佐藤 眞子	3	武豊	砲丸投	13.16	—	⑫ 12.48
桂山 李湖	3	平坂	砲丸投	13.04	—	—
岩田帆乃夏	3	御幸山	4×100mR	50.22	50.52	—
清水 爽加	3			—	—	—
白田菜々美	2			①佐藤さりな	①佐藤さりな	—
佐藤さりな	2			②白田菜々美	②白田菜々美	—
紀本みいな	2			③清水 爽加	③清水 爽加	—
相田真理子	2			④岩田帆乃夏	④岩田帆乃夏	—



大崎 慎平(安城南)選手



左:深谷 隼斗(有松)選手 右:大浦 優汰(六ツ美)選手



飯島 康介(西浦)選手



左:中野 真琴(豊橋東部)選手 右:掛川 栞(栄)選手



閉会式後の愛知県選手団

(久米 裕明)

高体連

1 全国高校総体結果報告

7月29日(日)から8月2日(木)までの5日間、新潟県新潟市の東北電力ビッグスワンスタジアムにおいて、第65回全国高等学校陸上競技対校選手権大会が開催され

名岐駅伝いまむかし⑬

第27回大会(1961 昭和36年)今大会から【一般】【高校】とも二部制となる

優勝：一般一部(10チーム)中京大 二部(30チーム)鈴木自動車 高校一部(17チーム)中京商 二部(39チーム)豊橋工
主催者の中部日本新聞社(本稿では、第一回大会から現在の紙名「中日新聞」に統一、以下同じ。)は、35/12/19に大会要項を発表。翌日の紙上で名岐国道の交通量の激増や名古屋テレビ塔前の混雑による事故防止のため、発着地点とコース間の距離(高校生の距離制限も一因)を大幅に変更することや参加資格等を掲載したが、この時点では二部制のことは触れていない。しかし、1/17の参加チームゼッケン番号の発表で、「昨年の成績を参考にして二部制」とし、前回大会の成績順に、一般一部12位内、高校一部20位内のチームとなり、それ以下の順位及び初参加のチームを二部とした。また、前回大会の順位をそのままゼッケン番号とした。12月の要項発表以降、どのような経緯で二部制になったかは新聞紙上では判然としないが、1/20の主将会議における「伴走者の違反は検挙」(愛知県警交通係長)発言から、激増する交通事故等から県警と主催者等の関係者間での協議の結果と思われる。

「レースの経緯」無風的好駅伝日和の下、一般40、高校56の計96チームが、名古屋城前での開会式後、一般9時30分、高校9時40分に同所を一・二部同時にスタート。岐阜県庁往復71.5キロの伊吹路に4本の昇竜旗を目指して健脚を競った。

一般：〈一部〉昨年の1区の反省から、マラソン日本最高記録保持者でエースの主将中尾を1区に起用した作戦の成功と、3、6、7、9区走者が区間最高記録の好走をみせた中京大(中尾、若沢、東、柳瀬、松田、森、幸村、塩塚)が、3時間32分38秒で三度目の優勝を遂げる。

〈二部〉では、初参加のため二部で走った鈴木自(佐藤、服部、中田、望月、後藤、小堺、筒井、鈴木)が、2位に12分近い差をつけ、一部3位に相当する3時間38分07秒で優勝。

高校：〈一部〉年末の第9回東海高校駅伝で2位豊橋工を2分45秒離して三連覇し、全国高校駅伝でも2位と健闘した中京商(江藤、山中、木下、服部、鈴木、佐久間、近藤、小田)が、前回大会で選手変更による失格で今大会は二部参加となった豊橋工に7区までトップを奪われたが、6、7区走者の好走を引継いだ8区の小田が辛うじて逆転し、14秒差の3時間41分51秒でゴールして四連覇を果たす。

〈二部〉上記の通り、豊橋工(白井、大田、大羽、住田浩、住田柱、高橋、山本、夏目)が、1、2、4区走者が全体の中で区間最高記録を出すなど、ゴール寸前まで中京商と熾烈な熱戦を展開した。

なお、高校5区での愛知工(定)伊藤健一選手の区間最高記録を特記しておきたい。

2位以下の結果は次のようである(原則として、一・二部共、4位以下は愛知県勢のみ。また、タイムは特別な場合を除き、一部3位まで記載。以下、同じ)。

- 一般：第一部 ②東洋ベア 3.37.30 ③東洋レA 3.40.52 ④中央発条B ⑤新三菱A ⑥渡玉毛織 ⑦トヨタ自工 ⑧愛知県庁 ⑨日本碍子 ⑩名商大
第二部 ②大垣体連 ③自衛隊岐阜 ⑤刈谷ク ⑥旭ダウ ⑦自衛隊守山 ⑧東亜合成 ⑨東芝名古屋 ⑩東洋プライウッド ⑪東洋レB ⑫新三菱B ⑬名大 ⑭神綱電機 ⑮碧南青 ⑯新城ク ⑰新三菱C ⑱第一毛織 ⑲瀬戸陸協 ⑳森保染 ㉑三菱電 ㉒東海理化 ㉓西尾ク ㉔東海銀行 ㉕名走友A ㉖森永乳業 ㉗江南体協 ㉘名走友B (注)大東紡織棄権
高校：第一部 ②長良 3.46.28 ③東邦 3.46.35 ⑤大同工 ⑥名商大附 ⑦一宮商 ⑧半田商 ⑩西尾実 ⑪愛知 ⑫半田農 ⑬渥美農 ⑭名城大附 ⑮半田 ⑯西尾実(定)
第二部 ②享栄商 ③成章 ⑥尾張 ⑦内海(定) ⑧瀬戸 ⑨田口 ⑩愛知工* ⑪足助 ⑫西陵商 ⑬津島商工 ⑭愛知工* ⑮瀬戸窯 ⑯新城 ⑰小牧 ⑱名電工 ⑲一宮 ⑳安城農 ㉑尾北 ㉒向陽* ㉓本郷 ㉔稲 ㉕名市工 ㉖名工芸 ㉗犬山 ㉘菊里 ㉙櫻台 ㉚明和 ㉛名工業 ㉜祖父江 ㉝古知野 ㉞瑞陵 ㉟向陽* ㊱内海 ㊲東海 ㊳大府 ㊴名市商 *「全日制」「定時制」の表示がないので区分不能

第28回大会(1962 昭和37年)新設コースで実施。総距離及び区間距離も【一般】と【高校】で大幅に変更(図)

一般：愛知県庁～(小牧・犬山経由)～岐阜県庁 往復「7区間」95.2キロ 高校：岐阜県庁～(犬山・小牧経由)～愛知県庁 片道「7区間」47.6キロ

優勝：一般一部(10チーム)中京大 二部(20チーム)自衛隊愛知 高校一部(19チーム)中京商 二部(20チーム)大垣工
大会要項は、中日新聞(36/12/20)に掲載され、選手資格が一般一部は、昨年度一部の上位9チームと二部上位3チームの計12チーム。二部は参加申込み自由。

高校一部は、昨年度第一部の上位15チームと二部の上位5チームの計20チーム。二部は愛知・岐阜県高体連から推薦される愛知15チーム、岐阜5チームの計20チーム。

「レースの経緯」

一般：愛知県庁前の開会式後、9時スタート。今季2番目の寒さとちらつく小雪をものともせず、名犬街道を北上、小牧、犬山から折返し地点の岐阜県庁を目指して激戦を展開。

〈一部〉一週間前の第16回東海学連駅伝で全区間賞を独占し、大会新で八連勝をとげた中京大(幸村、木下、東、早瀬、深町、岩井、松田)が、2区(東洋ベア)、3区(東洋レ)でトップを譲ったものの、3区の好走で4区から首位に立ち、そのまま5時間02分42秒でゴール。新コースでの初制覇を2連覇で飾る。

ライバル視された東洋ベアと中央発条は、ともに中国駅伝に主力が出場したこともあってか、今一步追い上げることができなかった。昨年、初参加ながら二部優勝した鈴木自は健闘したが、今回の一部では6位に終わる。

〈二部〉豊川、守山の選抜チームである自衛隊愛知(小幡、金辻、岩月、半田、金沢、伊藤、大田)が、愛知学芸大(現愛教大)名古屋校舎のグラウンドを借用してのスピード練習の成果もあり、一部の8位に相当する好記録で初優勝を飾る。

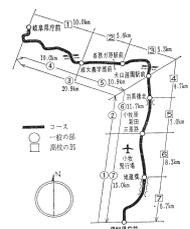
高校：岐阜県庁前での開会式後、11時スタート。昨年の上位入賞チームと両県の予選を勝ちぬいた精鋭39(愛知30、岐阜9)高校の選手が新コースで熱戦を展開。

〈一部〉昨年末の全国高校駅伝で3位入賞した中京商(佐久間、室田、小竹、服部、白井、江藤、浜野)が、7区間のうち、3区を除く6区間で区間1位の好走を見せ、2時間28分39秒で5連勝、通算11回目の優勝を果たす。遠路東三河から参加した豊橋工は、双子兄弟を初めとする選手がチームワークを発揮して健闘したが2位に終わる。

〈二部〉一部の4位と同タイムで優勝した大垣工をはじめ、岐阜県勢の活躍が目覚しく、上位5位までを独占した(④加茂、⑤多治見北)。

2位以下の結果は次のようである。

- 一般：第一部 ②東洋ベア 5.05.26 ③中央発条 5.06.13 ④東洋レ ⑤渡玉毛織 ⑦新三菱重工 ⑨愛知県庁 ⑩日本碍子
第二部 ②中津川陸協 ③名商大 ④東海理化 ⑤岡崎ク ⑥トヨタ車体 ⑦旭ダウ ⑧東芝名古屋 ⑨碧南青 ⑪瀬戸陸協 ⑫東海銀行 ⑬橋本毛織 ⑭日本ハードボード工業 ⑮森永乳業 ⑯菊里ク ⑰名走友 ⑱新東工 (注)協同乳業は三区で棄権
高校：第一部 ②豊橋工 2.33.00 ③中津商 2.33.20 ④東邦 ⑤享栄商 ⑥名商大附 ⑦大同工 ⑧成章 ⑨一宮商 ⑩名城大附 ⑪半田商 ⑫渥美農 ⑬西尾実 ⑭半田農 ⑮半田 ⑯愛知
第二部 ②益田 ③大垣商 ④小牧 ⑤田口 ⑥内海(定) ⑦安城農 ⑧名電工 ⑨木曾川 ⑩岡崎工 ⑪愛知工 ⑫豊橋商 ⑬滝実業 ⑭瀬戸窯 ⑮名市工 ⑯昭和 ⑰足助 ⑱本郷 (西垣 完彦)



ました。

ビッグスワンは、以前国体も開催され、また、サッカーJリーグ新潟アルビレックスのホームグラウンドとしても知られているためご存知の方も多いいと思います。とにかく大きな競技場で、東海地方としては静岡のエコパスタジアムが大きな競技場として知られておりますが、それよりももう一回り大きいのではないかと思われ、いろいろな場所への移動がそのつど大変な思いをした5日間でした。また、昨年の岩手も暑かったのですが、今年の新潟も暑く、さらに湿度も高く、大変な思いをしました。名古屋よりもかなり北に位置する土地なので少しは涼しいかと思っただけですが、なんら名古屋と変わらない暑いインターハイでした。

そんな中で、昨年よりは若干人数は減りましたが、それでも100名を超える人数で乗り込んだ愛知県選手団は今年もよく頑張りました。入賞種目も昨年よりは減りましたが、男女合わせて優勝1種目を含む15種目に入賞しました。

男子5000mで豊川のカレミ・ズク選手が他の外国人留学生を抑えて見事優勝しました。また、その5000mで豊川工業の平 和真選手は、県高校総体で出した県高校記録をさらに上回る13分55秒64というすばらしい記録で見事3位に入賞しました。

上位入賞では、女子200mで愛工大名電の丹羽愛利彩選手が3位、女子100mHで豊橋南の萩原可奈子選手が3位に入りました。この2名の選手はまだ2年生で、来年の大分総体での更なる活躍が期待されます。また、今回はこの2名を含めて1・2年生での出場が個人種目での参加70名中26名とほぼ3分の1を占めるほど多く、来年の結果がかなり期待できると思います。なお、今回の新潟総体の結果については別表を参照してください。

2 県高校駅伝の中継所・折り返し点の一部変更について

今年度は11月4日(日)に例年どおり知多市陸上競技場発着⇔市道北浜金沢線新舞子マリンパーク折返しコースにおいて行なわれますが、沿線企業の申し入れにより従来の中継所を移動させなければならなくなりました。

その結果、男子第3・第4・第5中継所を従来より約600m南に移動することとなりました。また、それに伴い男子第4区と第6区の折り返し点を約300m移動する事となりました。(各高校には連絡済みです。)

そこで、応援の方にはお願いです。中継所が移動した結果、男子第4中継所が朝倉インターの真下になりましたが、ここは1車線しかなく、道幅が極端に狭くなります。ここに応援の方が入り込みますと競技運営ができなくなりますので、絶対にこの近辺には立ち入らないようにお願いします。

(大島 修)

高体連定通部



全国大会での愛知県選手団

その結果、標準記録を突破し、3位までに入った男子22

名、女子19名、9校41名が選ばれた。

7月28日に刈谷市総合運動公園で強化練習会が行なわれ、愛知の代表としての自覚を持つよう深津俊幸男子監督、片山寿喜女子監督から強い言葉が聞かれた。

ロンドンオリンピックの余韻が残る中、8月13日から15日までの3日間、48年前にオリンピックが行なわれた、国立競技場で熱戦が繰り広げられた。

42都道府県から1,060名の参加の中、愛知は5種目で金メダルに輝いた。男子400mHは日高雅康(科技刈谷)が自己記録を大きく更新し、10台目のハードルで優勝を勝ち取った。5000mは片尾祐希(科技刈谷)が残り2周でスパートし、昨年の覇者を振り切って優勝した。女子は走高跳で山口浩美(豊橋)が前評判どおりの力を発揮し、1年生ながら優勝を果たした。また、磯貝杏奈(大府)も100mで優勝すると、その勢いが200mにまで及び2種目制覇を果たした。

男子3000mSCでは富山裕司(科技刈谷)が最後までトップ争いをし、昨年に続いての準優勝と活躍を見せた。

昨年度とは男女が逆転し、女子の活躍が男子を上回った。また、優勝者の粘り強い競技に、応援者は大きな感動をもらった。

男女総合成績は4位と昨年の成績から一步後退したが、41名の選手は、猛暑の中、愛知らしい取り組みをしてくれた。特に1年生が3種目に優勝するなど来年度も楽しみである。

(松橋 政人)

学連

前回の報告ではオリンピックイヤーの今年は五輪代表選手派遣が東海学連の大きな目標であると書いたが、6月の日本選手権後、現役学生で4名、OBで1名がオリンピックの代表選手に決定。また1名がオリンピック後に行なわれるパラリンピックの日本代表に選ばれ、学連として今年度の大きな目標を達成することができた。

6月に大阪・長居競技場で行なわれた日本選手権において山本聖途選手(中京大学)が優勝。あいにくの雨の中、今年すでに五輪A標準を突破している澤野大地選手(富士通)とのジャンプオフの結果見事に初優勝を果たし、代表選考においても若手のパワーが評価されたのか見事に代表に選ばれた。

また男子400mHでは十種競技が専門で1週間前の混成日本選手権で自己ベスト記録(7710点)をマークして2位に入賞している中村明彦選手(中京大学)が準決勝、決勝で大幅に自己ベストを更新し(49秒48、49秒38)、2位入賞。日本選手権本番でのA標準記録(49秒50)突破が評価され代表に決定した。

大会前から五輪代表の期待があった市川華葉(中京大学)は100mで予選敗退というアクシデントはあったものの、200mでは福島千里選手(北海道ハイテクAC)に続いて見事に2位入賞。4×100mR代表としてノミネートされた。

男子400mにおいては中野弘幸(愛知教育大大学院)が金丸祐三選手(大塚製薬)に続いて2位入賞し、4×400mRの代表候補となった。

その後日本チームのリレーに関しては男女4×100mRと男子4×400mRが7月2日時点での世界ランキング16位以内となり、市川選手、中野選手共に五輪代表が決定した。

またパラリンピックには佐藤圭太選手(中京大学3年

生、義足の部)が200m、400m、4×100mRの代表に選ばれ、これで東海学連からは現役の学生選手5名がロンドンオリンピック・パラリンピックに出場することとなった。

各選手とも代表決定後は取材や壮行会などの忙しいスケジュールの中、大きな怪我もなく順調に大会に向けて仕上げていく事ができた。本番では初出場のプレッシャーもあってか全員が予選敗退という結果となったが、現役学生としてのオリンピック参加は次回のオリンピックも十分狙える年齢であるため次につながる経験としてもらいたい。

オリンピック代表選手の4名は全て愛知県出身者(そのうち中京大の3選手は全て岡崎城西高校出身)であり、愛知県の選手層の厚さと共に有望選手を地元で育てていく重要性を実感した。

昨年の世界選手権で優勝し、すでに代表内定していた室伏広治選手(中京大学教員)は今大会3位に入賞し、見事に2大会ぶりのメダル(前々回アテネ大会では金メダル)

獲得となった。

五輪以外の話題としては全日本大学駅伝及び全日本大学女子駅伝の東海予選会が行なわれ、男子は中京大学、名古屋大学の2校が、女子は中京大学、愛知教育大学の2校とシード校の名城大学が10月28日(女子)、11月4日(男子)に行なわれる本大会に出場することとなった。

また9月9日から行なわれた日本インカレにおいては、7月の西日本インカレ男子の部で大量得点を獲得して総合優勝した中京大学の活躍が期待されたが上位には食い込めなかった。しかし逆に、市川選手の大活躍により女子が総合2位となった。(本田 陽)

愛知陸協 OB・OG 会

7月14日(土)、愛知選手権第1日目競技終了後、瑞穂公園ラグビー場1F会議室にて恒例のOB・OG会の総会・

渥美半島一周駅伝いまむかし(3)

第4回大会(昭和26年12月2日)

3連勝を勝ち取った豊橋青年は日の出の勢い。県選手権大会(みずほ)に参加した折にも渥美半島駅伝の話題の中で、今後も絶対に首位を譲らないと4連勝を口にしていた。この話に耳を傾けていた中京商クラブが挑戦状を持って申し込んで来た。日本長距離界の第一人者である浅井正(中央大卒)、大脇(中京商)の師弟を中心とした中京商クラブを編成して来たのだ。一区浅井(中京商ク)がトップでタスキを渡しその後も中京商クがトップを守る。渥美半島駅伝の王者豊橋青年が追撃を始め、2区宮林(豊橋青年)が区間賞を取り、5区では伊藤(渥美青年)がトップに割り込んで大接戦を演じ、太平洋表浜が決戦場となった。しかし7区水島(中京商ク)、8区土平(中京商ク)が区間賞を取り勝負を決める。初めての渥美路を無我夢中で走り抜いた高校生パワーによる勝利である。4連勝を旨とした豊橋青年は9区中野(豊橋青年)が必死の追走をするも、中京商クの後姿に手のとどく所まで行ったが、逆転はならず。応援団の悲鳴と諦め切れない悔しさに興奮覚めやらず、熱気は閉会式まで続いた。中京商クラブの優勝は見事なものであった。

第4回の駅伝成績(・・は調査中 ご存知の方はご連絡ください)

1位 中京商クラブ(浅井、大脇、・・、・・、・・、・・、・・、水島、土平) 5時間34分09秒
2位 豊橋青年 3位 渥美青年 4位 新城高 5位 八楽青年 6位 ・・
区間賞 1区浅井 正(中京商ク) 2区宮林 桂(豊橋青年) 3区加藤吉平(香流青年) 4区山田智道(時習館)
5区伊藤文雄(渥美青年) 6区杉浦元幸(豊橋青年) 7区水島寛二(中京商ク) 8区土平英夫(中京商ク)
9区柴田敏男(渥美青年)

エピソード 駅伝には伴走があたり前の時代、軽トラックの荷台に7~8人も乗って、竹棒を振りかざし自転車部隊と共にお祭りさわぎの大会であった。この年自転車で渥美半島1周95kmを伴走した学生がいた。家で大切に使われていた自転車を破損し、家の人に叱られた思い出話も今はなつかしい応援だったと。

第5回大会(昭和27年12月21日)

豊橋公会堂前を午前10時スタート、雨上がりの大会となり、市内を走り抜けると走路は軟弱な悪コンディションとなる。一区は例年通り精鋭が集まり抜きつ抜かれつのシーソーゲームとなる。八楽青年(大久保)はラストの強さを発揮し、48秒の差をつけて2区にタスキを渡す。勢いづいた八楽青年(岩崎)は韋駄天走りの快走で区間賞、駅伝ではこういう事もあるんだ。力をつけて来た渥美青年(柴田)は持ち前のスピードにものを云わせ、一気に八楽青年をかわし区間賞でトップに立った。その後、渥美青年、八楽青年、豊橋青年と3チームが同時にタスキを渡すという興奮するレースが続き、5区に入るとチーム力をつけた実力者の豊橋青年が、笹野、杉浦、中野、眞木と安定した後半の走りで優勝を勝ち取った。

昨年の屈辱から汚名を返上し、新たな豊橋青年連勝街道が始まった。この大会では太平洋岸、堀切から赤羽根、高塚までの表浜街道は坂、また、坂と赤土のぬかるむ道路に悩まされた選手も多かった。この中で地元渥美青年の伊藤文雄は長身からのストライド走法で、ぐんぐん飛ばし区間新記録を出すと共に、渥美青年が2位に入る健闘を見せた。また豊橋工業(大谷)が区間新記録の快走を見せ、高校生の健闘も目立った。遠来の県庁クラブ、常滑走友の健闘と共に選手の交流を深め、県下強豪選手の参加する熱の入った大会となった。

第5回の駅伝成績

1位 豊橋青年(兵藤、宮林、中島、早川、笹野、杉浦、糸柳、中野、眞木) 5時間37分54秒
2位 渥美青年 3位 八楽青年 4位 豊橋工業 5位 愛知県庁ク 6位 安城農林
区間賞 1区大久保晴安(八楽ク) 2区岩崎守夫(八楽ク) 3区柴田繁男(渥美青年) 4区早川克己(豊橋青年)
5区笹野富男(豊橋青年) 6区伊藤文雄(渥美青年) 7区大谷谷丈(豊橋工) 8区中野秋男(豊橋青年)
9区浦川力留(渥美青年) (牧田 功)

懇親会を開催しました。

当日は来賓2名、陸協専門委員長5名、会員68名にのぼる多くの皆様のご出席をいただきました。



寿杯の面々

総会では國分一郎世話人代表が議長に就き、前年度事業報告、決算報告、平成24年度事業計画、予算が原案どおり承認され、引き続いて次の方々に寿杯記念品の贈呈が行なわれました。米寿に太田哲郎氏(西三河)、傘寿は井上和孝氏(尾張)、森敏行氏(尾張)、廣田昌裕氏(名古屋)、手嶋文治氏(西三河)の各氏に、喜寿は山田孟司氏(尾張)、竹内信雄氏(名古屋)、村上毅治氏(名古屋)、岡本恒彦氏(名古屋)、桜井勘氏(名古屋)、平林栄治氏(名古屋)、千田俊樹氏(名古屋)、矢野通則氏(名古屋)、山内満氏(西三河)の9名に各々贈呈されました。

次いで次の8名の新会員が紹介され、バッジが贈呈されました。稲垣裕氏(名古屋)、青木実氏(名古屋)、水野隆夫氏(名古屋)、小林咲治氏(西三河)、本間隆勝氏、本間順子さん(西三河)、滝川なみ子さん(西三河)、園部安喜

氏(東三河)。

総会后、各地区毎の記念写真を撮り、懇親会はなごやかに親睦を図ることができました。秋には日帰り旅行、1月には新年懇親会を予定しており、現役時代、陸上競技を経験し、また協会の運営に協力していただいた同志の皆様との絆を深め、お互いの人生の糧になるよう努めてまいります。

OB(60才以上)、OG(50才以上)の皆さんのご入会をお待ち申し上げています。

ご入会の窓口は次の方々です。

尾張地区は小椋征弘、小島末広

名古屋地区は國分一郎、竹内信雄、平林栄治、高木章昭、村瀬雄一郎、伊藤紀久夫

西三河地区は山内満、外山修、石田美知枝

東三河地区は柴田要吉、加藤春雄。

(村瀬雄一郎)

マスターズ陸上

心豊かな長寿社会への貢献役

平成24年度の最後の記録会を、8月26日(日)にウェーブスタジアム刈谷で開催しました。参加実人員は、今年度

陸上競技場めぐり④ 愛知県一宮総合運動場 新しく生まれ変わった陸上競技場

総合運動場は「体育の振興及び青少年の文化的教育の向上を図る」を目的とし、昭和40年ご当地一宮市の協力により、県が建設の運びとなりました。

陸上競技場は昭和44年7月に西尾張地方唯一の公認3種競技場として完成し、実業団・地域クラブ・小・中・高校の競技会等々数多く利用されてきました。

建設されて20年余、競技規則も年々改正され、時代と共に他地域の公認競技場は全天候型・写真判定システムに改善・整備されてきました。一方当競技場は平成7・8年に走幅跳・棒高跳の助走路が全天候型に改修されましたが、トラック及びインフィールドは土のままでした。雨天時には泥にまみれ、極めて難渋し、怪我のないように配慮しての競技会になります。

全天候型改修について、平成3・7・18年の3回にわたって県に陳情しお願いをいたしました。

平成8年には、西尾張体育協会会長をはじめ関係市体育協会会長連名による陳情書、中小体連・高体連及びPTA、関係県議会議員によるご支援、競技会面では代替競技場として知多運動公園陸上競技場の使用を認めていただいた知多市ご当局・競技場関係者のご理解とご厚情を頂き競技を続けることができました。尾張陸協関係者は各方面に感謝しながらも全天候競技場の実現を願ってまいりました。

平成20年7月、待ちに待った全天候型競技場が着工。21年3月に新しく生まれ変わった陸上競技場が完成しました。

平成21年4月4日、県主催により開場式が挙行されました。神田真秋知事(当時)が「多くの方が利用し、活気ある場になることを期待したい」と挨拶され、スタンドを埋めつくした地元の関係者から歓声が上がりました。テープカットで祝った後に地元の小中学生らが新競技場の体感走に参加しました。体感走の後に竣工記念として開催された第1回記録会には多くの選手が参加してくださり、感激をあらたにしました。



トラック・フィールド全景
(提供 石黒体育)



写真判定室とスタンド

陸上競技場概要

所在地 一宮市千秋町佐野字向農 756 番地
面積 19,300 m² (総合運動場 166,263.87 m²)
竣工 昭和44年7月 400m 8レーン(第3種公認競技場)
改修 「全天候型競技場」平成21年3月(第3種公認競技場)
トラック 1周 400m 8レーン、直走路9レーン
3000m 障害一式(男女兼用調整型ハードル)
写真判定システム(照明完備)
インフィールド 85m × 69m(天然芝)
・走高跳2カ所 ・砲丸投2カ所
・ハンマー投、円盤投1カ所(サークルケージの整備)
・やり投2カ所

アウトフィールド

・走幅跳、三段跳2カ所 ・棒高跳2方向
管理棟「1階」空調設備
本部室、記録室、表彰室、競技者係室、救護室、湯沸室、男女更衣室、男女トイレ、多目的トイレ
「2階スタンド」屋根付きスタンド、エレベーター1基
身体障害者用4席、固定席599席
中央に放送室(空調設備 マイク3基内1基は本部室と接続)
小学生用ハードル(9台×9レーン)新規購入
器具庫2棟(内1棟新設)

※付記

当陸上競技場トラックは東西設置になっております。

改修の折に、南北への設置を要望しましたが、県当局からは、南北に設置した場合、現在の管理棟事務所をはじめテニスコート・プールまでが競技場の敷地内に入り、総合運動場としての機能が麻痺してしまうので現状維持ではとの回答がありました。尾張陸協としては、今までの競技運営・気象状況等を参考に検討しました結果、現状の形になりました。(高田 輝男)

最高の310人となりました。

競技の運営面では、1500mに55人のエントリーがあつて予定の2組を3組に変更して行なつたので、全体で15分程の遅れになりました。当日受付のため参加者数の予測が難しいのですが、タイムテーブルどおりの運営に努めなければなりません。

今年度と昨年度の参加実人数は以下のとおりです。

平成23年度		平成24年度		差
第40回(4月)	401人	第44回(4月)	174人	△227人
第41回(6月)	252人	第45回(6月)	221人	△31人
第42回(7月)	145人	第46回(7月)	268人	123人
第43回(8月)	219人	第47回(8月)	310人	91人
計	1,017人	計	973人	△44人

全体では44人減っていますが、減つた主な要因は、昨年の第42回から小学生の参加種目数を3種目から1種目に制限したことです。また、今年度の第44回から小学生友の会のクラブからの参加者には事前申込みをお願いし協力していただいています。これにより当日の受付の混雑が大いに緩和されました。

一方、今年度の第44回から日本マスターズ陸上競技連合の公認記録会となりましたので、参加者にも変化が生じてきています。愛知マスターズ以外の他県のマスターズ会員も記録が公認されるため、記録更新を目指して参加する会員が多く見られました。埼玉、神奈川、京都、大阪からの参加者が増えています。

第47回記録会で愛知マスターズ主催の競技関係の行事は全て終わりましたが、9月21日～23日に岡山で全日本マスターズ選手権、10月21日は静岡で東海マスターズ選手権、11月2日～7日に台北でアジアマスターズ選手権、11月11日には東京で全日本マスターズ駅伝、11月17日・18日には東京で指導者研修会が行なわれます。これらの大会や研修会で県内の選手、指導者の活躍が大いに期待されます。

最後にご報告が遅れた感がありますが、社団法人日本マスターズ陸上競技連合は、事務所を今年4月からマスターズ陸上発祥の地和歌山から新天地の東京に移転しました。この移転に伴い、より一層のマスターズ陸上の発展が期待されます。また、組織面においても現在の社団法人から公益社団法人へ年内に移行することをめざして内閣府と調整しています。私も総務委員長として微力ではありますが、推進役の一人として参画しています。愛知陸協は既に任意団体から一般財団法人として承認されていますので、内容や手続き等のご指導をいただければ幸いと存じます。

(佐野 昭二)

競技会報告

第23回愛知マスターズ陸上競技選手権大会 平成24年5月13日(日) ウェーブスタジアム刈谷

結果(日本新・県新のみ)

クラス	氏名	年齢	記録	順位	備考
男子800m					
M70	小山 真一	70	2.38.51	1	県新
男子3000mW					
M60	古賀 一雄	60	16.32.25	1	県新

男子重量投							
M70	山田 博嗣	71	17.12	1	日本新・県新		
女子60m							
W35	浅井 紀子	38	8.50	1	県新		
	酒井あおい	37	8.51	2	県新		
女子100m							
W55	長尾 典子	55	15.14	1	県新		
W30	宮川 直子	32	13.36	1	県新		
女子200m							
W55	長尾 典子	55	31.44	1	県新		
女子800m							
W60	川辺美和子	62	3.05.32	1	県新		
女子3000mW							
W50	松原 良子	54	21.49.88	1	県新		
女子走幅跳							
W35	浅井 紀子	38	5.12	1	県新		
女子三段跳							
W45	小野田三保	47	11.02	1	県新		
女子重量投							
W75	羽根田富美子	76	4.67	1	県新		
W55	前田賀屋子	56	9.22	1	日本新		

第63回愛知県高等学校定時制通信制陸上競技大会 平成24年6月10日(日) 知多運動公園陸上競技場

男子 (1位のみ)

種目	氏名	校名	記録
100m	奥原 秀一	豊橋	11.8
200m	奥原 秀一	豊橋	25.5
400m	日高 丈貴	刈谷東・夜	56.1
800m	林田 光平	科技刈谷	2.16.5
1500m	林田 光平	科技刈谷	4.43.1
5000m	片尾 祐希	科技刈谷	16.36.1
400mH	日高 雅康	科技刈谷	58.9 大会新
3000mSC	富山 裕司	科技刈谷	10.53.7 大会新
4×100mR	根石・相羽・藤田・山崎		47.8
4×400mR	日高・林田・富山・片尾		3.46.7
走高跳	稲垣 尚己	岡崎工	1.65
走幅跳	光武 悠吾	大府	5.88
三段跳	光武 悠吾	大府	12.20
砲丸投	市川 幹人	科技刈谷	9.55
円盤投	山崎 飛馬	科技刈谷	29.90 大会新

女子 (1位のみ)

種目	氏名	校名	記録
100m	磯貝 杏奈	大府	13.7
200m	磯貝 杏奈	大府	29.0
400m	奥村 美樹	科技刈谷	1.08.4
800m	板倉 優	科技刈谷	2.56.9
3000m	板倉 優	科技刈谷	13.24.4
100mH	山口 浩美	豊橋・昼	20.9
4×100mR	奥村・宮澤・板倉・山下		59.3
走高跳	山口 浩美	豊橋	1.52 大会新
走幅跳	宮澤 栞	科技刈谷	4.07
砲丸投	清原 香代	半田商業	7.92
円盤投	川本 里奈	名古屋西	20.72

2012東海混成競技大会兼第33回愛知県混成競技大会兼第72回愛知選手権リレー兼国体選考競技会・ジュニア記録会兼第9回愛知レディース陸上競技大会 2012年6月30日(土)・7月1日(日) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

(GR: 大会新記録)

	種目	1位	2位	3位
東海	男子混成十種競技	宮澤 陸 6933 中京大クラブ	井上 将成 6490 東三河 AC	牧野 光汰 5710 中京大

東海	女子混成七種競技	河野真希枝 3754 長久手高			
	男子混成十種競技	宮澤 陸 6933 中京大クラブ	井上 将成 6490 東三河 AC	一ノ瀬 航 5975 愛知教育大	
	男子混成四種競技	深谷 隼斗 2576 有松中	大浦 優汰 2514 六ツ美中	田中 良汰 2248 萩山中	
	女子混成七種競技	平手 佑佳 4478 名城大附属高	貫井 茜 4389 明和高	河野真希枝 3754 長久手高	
	女子混成四種競技	遠山 実希 2518 香流中	川口 舞子 2286 羽田中	加納 礼菜 2283 香流中	
愛知	5000m	中村 智春 14.17.45 トーエネック	竹下 正人 14.20.48 愛知製鋼	加藤 聡 14.24.85 トヨタ自動車	
	10000m	松本 淳 29.59.09 愛知製鋼	阿部 哲史 30.03.41 トーエネック	坂井 俊介 30.06.63 中央発條	
	4×100m	中京大 40.78 寺田 健人 大野 将士 南 晋太郎 寺澤 康浩	名古屋大谷高 40.98 竹内 智昭 宮崎 海悠 川野 直哉 金宮 圭佑	至学館大 41.36 鳥山 大輔 塚本 大貴 山口 明宏 千田 幸輝	
	4×400m	名古屋大谷高 3.14.49 木屋川内浩二 川野 直哉 金宮 圭佑 宮崎 海悠	東三河 AC 3.15.08 杉田 祐弥 西 淳史 丹羽将一朗 増岡 広昭	至学館大 3.16.13 村田 和繁 鳥山 大輔 小池 遊野 遠藤 昇平	
	5000m	鈴木亜由子 15.59.25 名古屋大	安藤 友香 16.33.01 ナムミス	服部 千秋 16.50.81 千種高	
選手権男子	4×100m	至学館大 47.84 征矢 萌唯 後藤 香奈 水上 祥子 塩野谷幸依	名城大附属高 47.94 谷 優奈 吉田 真樹 馬場 桃子 足立 香澄	至学館高 48.29 竹内 涼子 野村 真由 酒井 美緒 武内 琴子	
	4×400m	至学館大 3.54.82 塩野谷幸依 伊藤 亜依 杉浦 真梨 西尾真梨子	トヨタ自動車 3.56.29 大賀 理加 浅岡加世子 吉村 美紀 坂木花乃香	一宮西高 3.59.23 名倉 由真 倉川 葵 長尾 楓 尾崎 志帆	
	200m	村瀬 翔太 22.41 中京大中京高	黒木 省悟 22.80 豊川高	近藤 晃 22.94 愛工大名電高	
	3000m	谷川 貴俊 8.44.63 豊川高	多和田涼介 8.44.70 愛知高	飯島 康介 8.47.49 西浦中	
	走幅跳	渡邊圭一郎 7.12 中京大中京高	伊藤 裕也 6.82 時習館高	永尾 直哉 6.75 豊田大谷高	
選手権女子	砲丸投 (5.000kg)	清水 和樹 13.42 春日井高	石井 健史 12.95 春日井高		
	200m	伊藤 南侑 25.38 豊田高	中野 真琴 25.46 豊橋東部中	菅嶋 悠乃 26.08 AC 一宮	
	1500m	鷺見 梓沙 4.30.06 豊川高	中根 千明 4.34.78 中京大中京高	山田日菜野 4.36.55 豊川高	
	100m YH (0.762m+8.5m)	古澤 彩果 15.57 中京大中京高			
	走幅跳	八瀬 友香 5.10 中京大中京高	山内菜有里 5.09 千種高	辻 美貴子 5.01 豊田高	
国体男子少年B	砲丸投 (1.500kg)	鈴木 魁人 27.60 萩山中	岩田 知大 26.04 木曾川中	芳賀 勇 24.97 御幸山中	
	砲丸投 (4.000kg)	岡崎 大生 10.35 宮田中	宇野 皓保 8.82 鶴城中	奥山 凌也 8.77 宮田中	
	砲丸投 (4.000kg)	根本 桜 8.80 大高中	日比野由依 7.60 木曾川中		
	円盤投 (1.000kg)	近藤 有美 25.12 御幸山中	瀨野 真央 22.95 香流中	宇津 南美 22.73 御幸山中	
	100m	菅嶋 悠乃 12.75 AC 一宮	浜田 奈子 12.84 高浜中	杉浦 七海 12.98 東山中	
国体女子少年B	200m	岩田帆乃夏 26.25 GR 御幸山中	白田菜々美 26.42 GR 御幸山中	古賀 珠那 26.76 GR 竜北中	
	800m	大山 栞 2.24.52 末野原中	松林 璃真 2.25.98 御幸山中	山田 唯乃 2.27.04 逢妻中	
	1500m	井内 月野 4.46.84 知多 TC	後藤 梨奈 4.47.50 末野原中	塚本 茜 4.48.56 平坂中	
	100m JH (0.762m)	吉田 奈生 14.94 愛知淑徳中	北野喜里帆 14.98 愛知淑徳中	15.24 鈴木 瑞希 扇台中 田代夏央里 平坂中	
	走高跳	金城 柚花 1.56 鶴城中	榊原至佳子 1.56 成岩中	中西 美早 1.53 豊川西部中	
ジュニア男子	砲丸投 (4.000kg)	岡崎 大生 10.35 宮田中	宇野 皓保 8.82 鶴城中	奥山 凌也 8.77 宮田中	
	砲丸投 (4.000kg)	根本 桜 8.80 大高中	日比野由依 7.60 木曾川中		
	円盤投 (1.000kg)	近藤 有美 25.12 御幸山中	瀨野 真央 22.95 香流中	宇津 南美 22.73 御幸山中	
	100m	菅嶋 悠乃 12.75 AC 一宮	浜田 奈子 12.84 高浜中	杉浦 七海 12.98 東山中	
	200m	岩田帆乃夏 26.25 GR 御幸山中	白田菜々美 26.42 GR 御幸山中	古賀 珠那 26.76 GR 竜北中	
ジュニア女子	砲丸投 (1.500kg)	鈴木 魁人 27.60 萩山中	岩田 知大 26.04 木曾川中	芳賀 勇 24.97 御幸山中	
	砲丸投 (4.000kg)	岡崎 大生 10.35 宮田中	宇野 皓保 8.82 鶴城中	奥山 凌也 8.77 宮田中	
	砲丸投 (4.000kg)	根本 桜 8.80 大高中	日比野由依 7.60 木曾川中		
	円盤投 (1.000kg)	近藤 有美 25.12 御幸山中	瀨野 真央 22.95 香流中	宇津 南美 22.73 御幸山中	
	100m	菅嶋 悠乃 12.75 AC 一宮	浜田 奈子 12.84 高浜中	杉浦 七海 12.98 東山中	
レディース中学	走幅跳	吉村 月乃 5.23 東浦中	吉田 沙耶 5.12 六ツ美中	土屋友梨奈 5.02 古知野中	
	砲丸投 (2.721kg)	榊原 梨子 12.45 吉良中	佐藤 眞子 12.02 武豊中	瀧野 真央 11.47 香流中	
	100m	野村 真由 12.62 至学館高	伊藤 瑛里 12.77 岡崎西高	杉山 美貴 12.79 中京大中京高	
	200m	檜山 楓 25.53 GR 津島高	上岸みさき 26.07 愛知学院大	武内 琴子 26.26 至学館高	
	400m	吉川 侑希 56.53 GR 中京大中京高	尾崎 志帆 57.57 一宮西高	荻野 千春 59.01 愛知高	
レディース一般	800m	森田 琴乃 2.18.35 千種高	大久保紗希 2.18.94 至学館高	柴田 夏希 2.19.03 一宮北高	
	1500m	中根 千明 4.36.11 GR 中京大中京高	横山友里乃 4.38.69 愛知高	村山 菜月 4.40.61 至学館高	
	100mH (0.840m)	山崎由加里 14.48 栄新葵	齊藤 早希 14.77 岡崎城西高	古澤 彩果 15.43 中京大中京高	
	400mH (0.762m)	大谷友梨恵 1.01.20 至学館大	伊藤 菜穂 1.06.68 安城学園高	山本 彩世 1.06.99 愛知淑徳大	
	3000mS (762mm)	高橋 季香 11.35.21 中京大中京高	成田 菜由 12.03.91 春日井高	木学 直子 12.06.10 旭丘高	
	走高跳	笹島 藍 1.67 愛知アスリート	杉浦 澄美 1.67 岡崎城西高	炭 水士里 1.61 中京大	
	走幅跳	石原 薫子 5.58 岡崎城西高	竹内 涼子 5.54 至学館高	松山 衣里 5.45 中京大	
	三段跳	古賀上麻里 10.92 岡崎城西高	河野真希枝 10.83 長久手高	東 裕美 10.79 明和高	
	砲丸投 (4.000kg)	田口 優 10.04 一宮北高	水野 綾香 9.73 明和高	牧 亜香里 8.93 中京大中京高	
	円盤投 (1.000kg)	安藤かすみ 31.00 至学館高	丸山侑里子 29.21 名東高	松澤 綾 28.86 日進西高	
	やり投 (0.600kg)	三浦 萌 42.67 愛知学院大	東野 麻衣 42.04 愛知陸協	木村 佳代 39.87 成章高	
	レディース共通	棒高跳	松下 琴子 2.80 中京大中京高	江口 紫 2.80 愛知陸協	佐藤 愛 2.60 中京大中京高
		100+200+300+400m	明和高 2.22.26	御幸山中 2.22.84	豊明高 2.22.92
			新美帆乃香 高野 莉万 藤谷 有紀 貫井 茜	清水 爽加 佐藤さりな 白田菜々美 岩田帆乃夏	中道慧里花 若杉 奈実 成田 美玖 木下紗由美

レディース中学	走幅跳	吉村 月乃 5.23 東浦中	吉田 沙耶 5.12 六ツ美中	土屋友梨奈 5.02 古知野中
	砲丸投 (2.721kg)	榊原 梨子 12.45 吉良中	佐藤 眞子 12.02 武豊中	瀧野 真央 11.47 香流中
	100m	野村 真由 12.62 至学館高	伊藤 瑛里 12.77 岡崎西高	杉山 美貴 12.79 中京大中京高
	200m	檜山 楓 25.53 GR 津島高	上岸みさき 26.07 愛知学院大	武内 琴子 26.26 至学館高
	400m	吉川 侑希 56.53 GR 中京大中京高	尾崎 志帆 57.57 一宮西高	荻野 千春 59.01 愛知高
	800m	森田 琴乃 2.18.35 千種高	大久保紗希 2.18.94 至学館高	柴田 夏希 2.19.03 一宮北高
	1500m	中根 千明 4.36.11 GR 中京大中京高	横山友里乃 4.38.69 愛知高	村山 菜月 4.40.61 至学館高
	100mH (0.840m)	山崎由加里 14.48 栄新葵	齊藤 早希 14.77 岡崎城西高	古澤 彩果 15.43 中京大中京高
	400mH (0.762m)	大谷友梨恵 1.01.20 至学館大	伊藤 菜穂 1.06.68 安城学園高	山本 彩世 1.06.99 愛知淑徳大
	3000mS (762mm)	高橋 季香 11.35.21 中京大中京高	成田 菜由 12.03.91 春日井高	木学 直子 12.06.10 旭丘高
	走高跳	笹島 藍 1.67 愛知アスリート	杉浦 澄美 1.67 岡崎城西高	炭 水士里 1.61 中京大
	走幅跳	石原 薫子 5.58 岡崎城西高	竹内 涼子 5.54 至学館高	松山 衣里 5.45 中京大
	三段跳	古賀上麻里 10.92 岡崎城西高	河野真希枝 10.83 長久手高	東 裕美 10.79 明和高
	砲丸投 (4.000kg)	田口 優 10.04 一宮北高	水野 綾香 9.73 明和高	牧 亜香里 8.93 中京大中京高
	円盤投 (1.000kg)	安藤かすみ 31.00 至学館高	丸山侑里子 29.21 名東高	松澤 綾 28.86 日進西高
やり投 (0.600kg)	三浦 萌 42.67 愛知学院大	東野 麻衣 42.04 愛知陸協	木村 佳代 39.87 成章高	
レディース共通	棒高跳	松下 琴子 2.80 中京大中京高	江口 紫 2.80 愛知陸協	佐藤 愛 2.60 中京大中京高
	100+200+300+400m	明和高 2.22.26	御幸山中 2.22.84	豊明高 2.22.92
		新美帆乃香 高野 莉万 藤谷 有紀 貫井 茜	清水 爽加 佐藤さりな 白田菜々美 岩田帆乃夏	中道慧里花 若杉 奈実 成田 美玖 木下紗由美

2012 愛知県小学生リレー大会
2012年6月24日(日) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

男子				
種目名	1位	2位	3位	
全国 4×100m	安城JAC-A 50.59 朝倉 拓海 松下隆之介 戸田 健太 ダニエル 河内	豊橋陸上クラブ A 52.23 村田 響 松山 卓暉 尾藤皓太郎 渡辺 大智	TSM A 53.59 田中 大翔 大野 秀哉 堀井 健史 元紀	
	4年 50m	三ヶ尻祐大 7.85 TSM	橋本 佑輔 7.86 豊橋陸上クラブ	松浦 孝之 7.93 作野 AC
5年 100m	鳥居 洋介 13.99 安城 JAC	中西 琳哉 14.05 小牧ジュニア	一柳慎之介 14.10 安城 JAC	
6年 100m	松下隆之介 13.08 安城 JAC	戸田 健太 13.12 安城 JAC	ダニエル河内 3.16 安城 JAC	
全国80mH (0.700m)	蔵田 源貴 12.90 なごや陸上ク	上田 寛夢 13.56 なごや陸上ク	古庄 太希 13.65 AC 一宮	
全国 走高跳	榊原 圭悟 1.38 成岩 SC 陸上	本多 海斗 1.25 安城北部 AC	飯田 圭祐 1.25 布袋陸上ク	
4年 走幅跳	中西 健太 3.48 知立ジュニア	水野 太陽 3.41 TSM	立花 涼真 3.40 知立ジュニア	
全国 走幅跳	中村 伊吹 4.81 JAC とよあけ	松尾 健永 4.79 なごや陸上ク	山口 哲太 4.54 千代田橋 AC	
全国 ソフトボール投	藤井 瑞樹 65.16 鬼南クラブ	石川 凱揮 57.73 安城東部 AC	溝部 大翔 57.14 今池 AC	

女子 (PR: 県新記録 / GR: 大会新記録)

種目名	1位	2位	3位
全国 4×100m	安城JAC-A 53.53 畔柳 幸奈 浅岡 陽名 池田 美琴 成瀬 汐七	豊橋陸上クラブ 54.40 荒田 和花 原田莉々子 生田奈緒子 米重 美紅	田原陸上クラブ 54.46 成田 朱花 海藤明日香 平松 琴美 鈴木 晴菜
4年 50m	新庄 理子 7.76 豊橋陸上クラブ	月岡百々花 安城北 竹川 綾乃 豊橋陸上クラブ	AC 8.15
5年 100m	竹崎 郁乃 14.14 安城 JAC	石川 留菜 14.14 安城 JAC	石川 真菜 14.54 安城 JAC
6年 100m	米重 美紅 13.52 豊橋陸上クラブ	富塚日南々 13.71 JAC 武豊	渡部 純果 13.78 JAC 大府
全国80mH (0.700m)	蛭川 真未 13.41 成岩 SC 陸上	荒田 和花 13.86 豊橋陸上クラブ	齋藤あおば 14.15 なごや陸上ク
全国 走高跳	成田 朱花 1.36 GR 田原陸上クラブ	仲井 瑞紀 1.25 なごや陸上ク	1.25 夏目ゆうか 豊橋陸上クラブ 倉田 実咲 TSM
4年 走幅跳	三矢 遥菜 3.58 いっしき陸上	吉村 真星 3.46 東浦 AC	稲葉 星奈 3.32 JAC 大府
全国 走幅跳	平松 琴美 4.35 田原陸上クラブ	藤井 遥加 4.30 とよた AC	都築 陽奈 4.24 とよた AC
全国 ソフトボール投	高田 爽矢 63.01 PR GR 成岩 SC 陸上	高木 希望 47.79 知立ジュニア	石垣 綾香 47.66 JAC 武豊

混合

種目名	1位	2位	3位
4年 4×100m	豊橋陸上クラブ A 59.79 外山 花音 新庄 理子 村瀬 俊哉 加藤 大樹	作野 AC-A 1.01.07 牧野 りえ 市川 理帆 松浦 孝之 谷口 智紀	豊橋陸上クラブ B 1.01.25 生田 桃子 中西なつ美 橋本 佑輔 市川凜太郎
5年 4×100m	安城JAC-A 54.42 GR 石川 留菜 竹崎 郁乃 鳥居 洋介 一柳慎之介	豊橋陸上クラブ A 56.28 鈴木 愛乃 沖 有友里 町田 啓允 齋藤 岳	TSM A 56.86 三宅 真生 伊藤 綾夏 小出 大智 戸丸 優矢

第72回愛知陸上競技選手権大会
兼第55回東海陸上競技選手権大会予選会
兼第67回国民体育大会選手選考競技会
 2012年7月14日(土)・15日(日) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

男子 (GR: 大会新記録)

種目	1位	2位	3位
100m	西垣 佳哉 10.65 法政大	長田 拓也 10.69 豊川高	田中 星次 10.70 トヨタ自動車
200m	安井 一樹 21.47 中京大	田中 星次 21.95 トヨタ自動車	丹羽 勇輝 21.98 春日井南高
400m	岡田 壮平 47.68 法政大	牧野 武 48.05 早稲田大	増岡 広昭 48.48 東三河 AC
800m	栗津 良介 1.53.27 愛知陸協	沼田 拓也 1.55.16 トヨタ自動車	杉田 佑弥 1.55.68 東三河 AC
1500m	小山 俊之 3.54.24 京都大	高瀬 昌俊 3.54.55 東京農大	金尾 圭祐 3.54.58 豊川工高
110mH (1.067m)	古川裕太郎 14.02 小島プレス	飯田 将之 14.22 ミズノ	内藤 真人 14.30 ミズノ
400mH (0.914m)	中村 明彦 49.93 GR 中京大	増岡 広昭 50.55 東三河 AC	岡田 壮平 51.70 法政大
3000mSC (914mm)	加藤 聡 8.59.41 トヨタ自動車	成瀬 雅俊 9.06.87 豊川工高	清水 勇 9.09.07 トーエネック
5000mW	山田 康太 20.59.75 愛知高	杉本 明洋 21.30.85 merclair	戸松 弘成 21.46.96 愛知教育大
走高跳	舟瀬 勇太 2.14 名古屋デジタル	赤井 裕明 2.11 愛知陸協	2.00 早川 周吾 安城学園 AC 加藤 紀一 名古屋工業大

棒高跳	山本 聖途 5.50 GR 中京大	近藤 清貴 5.20 中京大	榎 将太 5.10 中京大
走幅跳	木村 友紀 7.61 愛知陸協	東 孝一 7.60 小島プレス	鈴木 舜也 7.39 成章高
三段跳	金田 純弥 15.53 名古屋工業大	木村 友紀 15.41 愛知陸協	山本 雄介 15.32 小島プレス
砲丸投 (7.260kg)	越 寛将 14.25 中京大	久保 浩司 13.39 中京大クラブ	松尾 卓郎 13.13 愛知教育大
円盤投 (2.000kg)	越 寛将 45.43 中京大	久保 博規 44.08 中京大クラブ	平井 将人 41.63 愛知教育大
ハンマー投 (7.260kg)	久保 浩司 64.82 中京大クラブ	墨 訓熙 59.48 中京大	一柳 英之 59.05 中京大
やり投 (0.800kg)	下り藤修大 66.90 小島プレス	榊原 寛紀 65.03 豊田自動織機	松山 直樹 63.19 愛知学院大

最優秀選手 棒高跳 山本 聖途 中京大

女子

種目	1位	2位	3位
100m	丹羽愛利彩 12.04 愛工大名電高	前川 奈央 12.18 都留文科大	後藤 香奈 12.40 至学館大
200m	丹羽愛利彩 24.28 愛工大名電高	野村 真由 24.71 至学館高	樫山 楓 24.97 津島高
400m	吉川 侑希 56.20 中京大中京高	樫山 楓 56.91 津島高	水口 小夜 56.96 筑波大
800m	竹内麻里子 2.10.99 中京大	森田 琴乃 2.13.43 千種高	中根 千明 2.14.42 中京大中京高
1500m	西川かりん 4.29.15 中京大中京高	松井恵里奈 4.37.77 時習館高	中根 千明 4.38.58 中京大中京高
100mH (0.840m)	岸 沙耶香 14.01 小島プレス	山崎由加里 14.15 栄新薬	萩原加奈子 14.19 豊橋南高
400mH (0.762m)	浅岡加世子 59.36 トヨタ自動車	斎藤 結 59.96 中京大	大谷友梨恵 1.01.63 至学館大
3000mSC (762mm)	大山 早紀 11.38.07 岡崎城西高	成田 菜由 11.52.86 春日井高	竹嶋 央后 11.58.08 津島北高
5000mW	加藤みづ紀 24.28.97 千種高	前川 知美 24.42.29 三遊自動車	前田 紗希 25.16.68 名古屋大
走高跳	松本明日美 1.74 中京大クラブ	笹島 藍 愛知アスリート 河澄 真子 中京大	1.71
棒高跳	松下 琴子 3.00 中京大中京高	佐藤 愛 2.90 中京大中京高	船本 新奈 2.70 三好高
走幅跳	浅井 真子 5.75 光ヶ丘女高	酒井 瞳味 5.74 岡崎城西高	布施 和花 5.57 至学館大
三段跳	小川 詩織 11.88 愛知アスリート	北島 菜璃 11.70 同志社大	水野 捺恵 11.56 中京大
砲丸投 (4.000kg)	中村 彩花 10.90 豊橋東高	伊東亜優美 10.55 日体大	丸山 夏美 10.53 碧南高
円盤投 (1.000kg)	北見 仁美 41.64 東海大	近藤 瞳 41.01 至学館大	芳賀恵理香 32.08 愛知学院大
ハンマー投 (4.000kg)	野田 奈央 56.89 名古屋学院クラブ	近田 茜 45.44 国際武道大	赤嶺 愛 44.59 豊田自動織機
やり投 (0.600kg)	江島 成美 48.49 チームミズノ	浅井 美咲 43.68 至学館大	福永 理沙 41.51 愛知学院大

最優秀選手 ハンマー投 野田 奈央 名古屋学院クラブ

第58回全日本中学校通信陸上競技愛知県大会
兼第39回全日本中学校陸上競技選手権大会愛知県予選会
兼第67回国民体育大会選手選考競技会 (少年B・共通)
 2012年7月16日(月・祝) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

男子 (◎: 標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年 100m	大原 康平 12.05 神沢	伊藤 僚英 12.48 滝	筒井 幹太 12.62 高師台
1年 1500m	鈴木 琢海 4.34.13 福江	黒野 敬斗 4.35.12 吉良	有賀 翔平 4.35.73 宮田
2年 100m	和田 瑞輝 11.60 田原	大参 祐輝 11.92 安城南	彦坂 陽平 12.01 振南
3年 100m	松元 大修 11.53 天神山	中 夏良 11.58 青陵	山本マルコ 11.60 豊橋東陵
200m	大崎 慎平 23.05 安城南	祖父江 巧 23.28 大口	山本マルコ 23.30 豊橋東陵

400m	大澤 京介 52.68 御幸山	大崎 創 52.73 大治	斎藤 光希 53.16 小坂井
800m	山崎 尚信 2.03.51 富士	渡邊寿希也 2.03.69 矢作	佐藤 亘 2.04.71 石尾台
1500m	米山 遼 4.10.31 ◎上郷	飯島 康介 4.10.80 西浦	佐藤 敏也 4.10.87 木曾川
3000m	飯島 康介 8.44.73 ◎西浦	三輪 軌道 8.55.59 ◎東港	佐藤 敏也 8.57.05 ◎木曾川
110mH (0.914m)	政岡 薫 15.13 富士松	久我 敏基 15.19 豊橋南部	内田 堅斗 15.61 富士
4×100mR	安城南 44.61 足立 智彦 大参 祐輝 丸山 拓也 大崎 慎平	大治 44.86 渡邊 優雅 大崎 創也 平野 純也 福山 一樹	田原 44.96 藤原 琢人 渡會 康貴 西脇 成海 和田 瑞輝
走高跳	長内 祐樹 1.82 千鳥丘	二村 哲生 河合 宏哉	矢作 武豊 1.79
棒高跳	加藤 準也 3.90 石巻	藤田 刀夢 3.80 逢妻	3.60 内藤諒太郎 鶴城 細井 駿作 岡崎南
走幅跳	近藤 全 6.54 富士	梶川 凌平 6.49 香流	安藤 大河 6.36 知多八幡
砲丸投 (5.000kg)	白藤 聖陽 11.86 矢作	井上 翼 11.50 千種台	大浦 優汰 11.41 六ツ美

800m	山崎 尚信 2.03.30 富士	渡邊寿希也 2.03.37 矢作	山本 淳太 2.03.59 塩津
1年 1500m	山田 紘暉 4.41.52 大府北	杉浦 弘崇 4.42.36 安祥	河合 陽平 4.42.45 田原東部
2年 1500m	内山 将志 4.14.67 五並	前田 智広 4.19.39 江南西部	青山 尚大 4.19.40 宮田
3年 1500m	飯島 康介 4.04.47 ◎西浦	佐藤 敏也 4.10.42 ◎木曾川	三輪 軌道 4.11.71 東港
3000m	鈴木 貴博 9.05.17 岡崎東海	家氏 諒祐 9.08.84 扇台	平山 亮介 9.11.32 吉良
110mH (0.914m)	深谷 隼斗 14.80 有松	政岡 薫 15.06 富士松	久我 敏基 15.18 豊橋南部
低学年 4×100mR	高師台 47.42 上田 大登 夏目 充裕 筒井 幹太 古川 奨瑛	鶴城 47.46 杉浦 大輝 三浦 李矩 柵木 友幸 長谷 成将	田原 47.95 細江 優也 中野 翔基 前橋 竣耶 渡會 康貴
4×100mR	安城南 44.11 足立 智彦 大参 祐輝 丸山 拓也 大崎 慎平	石巻 44.29 村上 公隆 原 優人 加藤 準也 鈴木 雄大	大治 44.39 渡邊 優雅 大崎 創也 平野 純也 福山 一樹
走高跳	河合 宏哉 1.82 武豊	長内 祐樹 1.79 千鳥丘	白澤 克徳 1.79 有松
棒高跳	藤田 刀夢 3.90 逢妻	千藤 瑛司 3.80 豊川東部	細井 駿作 3.60 岡崎南
走幅跳	近藤 全 6.45 富士	安藤 大河 6.43 知多八幡	鈴木 力斗 6.38 大口
砲丸投 (5.000kg)	戸澤 廣哉 12.25 甲山	井上 翼 11.82 千種台	白藤 聖陽 11.49 矢作

女子 (◎：標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年 100m	長谷川愛樹 13.19 守山北	吉村 月乃 13.44 東浦	川端 真奈 13.57 東山
2年 100m	谷元 見優 12.98 高針台	白田菜々美 13.17 御幸山	花井 環 13.23 刈谷東
3年 100m	中野 真琴 12.48 ◎豊橋東部	菅嶋 悠乃 12.63 扶桑	浜田 奈子 12.65 高浜
200m	菅嶋 悠乃 25.64 ◎扶桑	松本 扶弥 25.93 矢作北	西村 彩佳 26.21 成岩
800m	塩崎 葵 2.17.55 藤森	向井 智香 2.19.09 御幸山	山田 海鈴 2.20.83 田原
1500m	鈴木 智子 4.41.39 亀崎	酒井 美有 4.45.15 栄	塚本 茜 4.47.52 平坂
100mH (0.762m)	吉田 奈生 14.73 ◎愛知淑徳	鈴木 瑞希 14.88 扇台	北野喜里帆 14.97 愛知淑徳
4×100mR	愛知淑徳 50.28 番 クラウディア貴子 北野喜里帆 岩澤 美弓 吉田 奈生	朝日丘 50.92 須賀 千織 一ノ瀬早希 竹下 悠香 一ノ瀬安葉	豊橋東部 50.94 松尾 葵 井口 智晶 星野みなみ 中野 真琴
走高跳	中西 美早 1.63 ◎豊川西部	金城 柚花 1.60 ◎鶴城	佐々木悠里 1.60 ◎大府
走幅跳	明星 光 5.25 猿投	吉村 月乃 5.20 東浦	梶野 香子 5.18 昭和橋
砲丸投 (2.721kg)	佐藤 眞子 12.74 ◎武豊	桂山 李湖 12.40 平坂	榊原 梨子 11.87 吉良

第66回愛知県中学校総合体育大会陸上競技大会
2012年7月29日・30日 瑞穂公園陸上競技場

男子 (◎：標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年 100m	大原 康平 11.96 神沢	竹田 健人 12.43 宮田	伊藤 僚英 12.45 滝
2年 100m	和田 瑞輝 11.49 田原	大参 祐輝 11.63 安城南	長谷 成将 11.81 鶴城
3年 100m	松元 大修 11.58 天神山	新美 泰地 11.63 東浦	中 夏良 11.65 青陵
200m	大崎 慎平 23.23 安城南	天野 広大 23.31 高師台	鈴木 雄大 23.35 石巻
400m	斎藤 光希 53.00 小坂井	金田 将成 53.34 旭南	大崎 創 53.41 大治

女子 (◎：標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年 100m	長谷川愛樹 12.99 守山北	原 智聖 13.11 大府北	川端 真奈 13.42 東山
2年 100m	掛川 栞 12.59 栄	谷元 見優 12.64 高針台	藤原 実紗 12.95 鶴城
3年 100m	中野 真琴 12.52 豊橋東部	浜田 奈子 12.63 高浜	菅嶋 悠乃 12.66 扶桑
200m	松本 扶弥 25.65 矢作北	西村 彩佳 26.07 成岩	岩田帆乃夏 26.58 御幸山
1年 800m	酒井 美有 2.20.06 栄	猪塚 真希 2.21.01 東浦北部	宇野 佑紀 2.22.38 常磐
800m	加藤 遥香 2.19.59 諸輪	長屋 美月 2.20.21 千種台	大脇万理恵 2.22.04 江南北部
1500m	塩崎 葵 4.41.42 藤森	鈴木 智子 4.41.43 亀崎	向井 智香 4.45.61 御幸山
100mH (0.762m/8m)	田代夏央里 14.86 平坂	鈴木 瑞希 14.94 扇台	加納 礼菜 15.17 香流
低学年 4×100mR	二川 52.65 山本 菜月 松井 葉奈 森本 あみ 武田 菜奈	六ツ美北 52.83 中根 舞穂 山本 里菜 沖田 梨珠 福井 南美	阿久比 52.87 新美 桃子 竹内 夢乃 道塚 弓葉 山内 美里
4×100mR	御幸山 50.17 佐藤さりな 白田菜々美 清水 爽加 岩田帆乃夏	東山 50.46 平塚 由季 川端 真奈 川口 万純 杉浦 七海	豊橋東部 50.58 井口 智晶 松尾 葵 星野みなみ 中野 真琴
走高跳	榊原至佳子 1.63 ◎成岩	金城 柚花 1.63 ◎鶴城	山佐 水貴 1.57 ◎大高
走幅跳	明星 光 5.46 ◎猿投	吉村 月乃 5.28 東浦	小出明日香 5.28 富士
砲丸投 (2.721kg)	佐藤 眞子 12.94 ◎武豊	桂山 李湖 12.77 ◎平坂	榊原 梨子 12.24 吉良

学校対抗総合順位

	1位	2位	3位
男子	安城市立安城南	豊川市立東部	名古屋市立富士
女子	名古屋市立御幸山	安城市立東山	西尾市立平坂

平成24年度全国高等学校総合体育大会
秩父宮賜杯第65回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
平成24年7月29日(日)～8月2日(木) 東北電力ビッグスワンスタジアム

男子

Table with 5 columns: 種目, 順位, 記録, 選手名, 学校名. Rows include 5000m, 110mH, 3000mSC, 4x400mR, 5000mW, 走幅跳, 八種競技.

女子

Table with 5 columns: 種目, 順位, 記録, 選手名, 学校名. Rows include 200m, 100mH, 走幅跳.

第47回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会
平成24年8月13日(月)～15日(水) 国立競技場

男子

Table with 5 columns: 種目, 順位, 氏名, 校名, 記録. Rows include 5000m, 400mH, 3000mSC, 4x100mR, 4x400mR.

女子

Table with 5 columns: 種目, 順位, 氏名, 校名, 記録. Rows include 100m, 200m, 400m, 100mH, 4x100mR, 走高跳, 円盤投.

第33回愛知県ジュニアオリンピック競技大会
第43回ジュニアオリンピック陸上競技大会愛知選手選考会
2012年9月17日(月) 瑞穂公園陸上競技場

(◎: 標準記録突破)

(クラス: A...中学3年 B...中学2年 C...中学1年)

Table with 5 columns: 種目, 1位, 2位, 3位. Rows include 100m, 200m, 3000m, 110mH (0.991m).

Main table with 5 columns: 種目, 選手名, 記録, 選手名, 記録. Rows include 男子A, 男子B, 男子C, 男子A/B/C共通, 女子A, 女子B, 女子C, 女子A/B/C共通, 女子A/B/C共通.

理事会等会議報告

○定時評議員会 24年6月26日(火) 18:30 県教育会館

1 審議事項

- ①平成23年度一般概要報告について
1 登録者数 2 栄誉賞受賞者
3 愛知陸協会会長表彰 4 愛知県体育協会表彰
5 公認審判員昇格者
6 海外派遣(日本陸連代表)及び海外結果
②平成23年度事業報告について
1 主催・共催・協力事業 2 選手強化委員会行事
③平成23年度決算報告について
監査報告
④平成24年度事業計画について
1 主催・共催・協力事業 2 選手強化委員会事業
⑤平成24年度予算について
⑥協会役員の承認について
⑦役員の報酬について
⑧事務局職員の給与について
以上審議事項全て承認される。

2 報告事項

- ①役員・評議員の定年制度について
②東海陸上競技協会表彰者の推薦について
③愛知選手権選手権賞寄贈の依頼について
④定款細則について
⑤慶弔規定について
⑥事務局規定について
⑦県会長表彰候補者について
⑧災害補償制度について
⑨専門委員会報告
・記録委員会…競技会結果のアップについて
・審判委員会…審判報酬について
⑩その他
・土曜記録会の日程変更 ・マラソンフェスティバル要項
・オリンピック代表選手 ・アジアジュニア代表選手
・オリンピック報奨 ・専門委員長会議 ・全日中関係

○8月理事会 24年8月8日(水) 18:00 県教育会館

1 協議事項

- ①国体「県代表選手・役員」の選考について
強化委員長より原案が示され全て了承される。

2 報告事項

- ①国体代表選手の強化合宿について
②全国高校陸上競技大会の成績について
③日本ジュニア・ユース選手権大会について
④マラソンフェスティバルについて
1 参加申込み案内について
2 ボランティア募集の案内について
3 ウィメンズの反省について
⑤全日中愛知県選手出場者について
⑥各専門委員会報告
1 慶弔規定と事務局規定の改定について
2 競技会における盗撮について
3 やり投の事故について
4 新記録として確認した種目について
5 県内公認競技場等検定状況について
6 夏季駅伝合宿について
⑦その他 (稲垣 裕)

栄章

心より祝福申し上げます。

○ロンドンオリンピック出場者激励会

- 期日 平成24年7月15日(日)
場所 瑞穂公園陸上競技場
選手 中村 明彦・中京大(400mH)
山本 聖途・中京大(棒高跳)
室伏 広治・ミズノ(ハンマー投)
中野 弘幸・愛知教育大学院(1600mR)
市川 華菜・中京大(400mR)

○日本陸連栄章受賞者

- 期日 平成24年7月15日(日)
場所 瑞穂公園陸上競技場
高校優秀選手章 岡田 壮平(名古屋高)
中学優秀選手章 村瀬 翔太(城山中)

○東海陸上競技協会表彰

長年陸上競技会の発展に寄与した方で、4年毎のオリンピック年に表彰。

- 期日 平成24年8月26日(日)
場所 三重県営総合(競)陸上競技場

- 受賞者 浜島 匡矢(名)
若松 良一(名)
岩瀬 一(名)
数馬 公(名)
石田美知枝(西)
鴨下 克己(西)
小林 暎治(西)
萬谷 康幸(尾)



○愛知陸上競技協会会長表彰

60歳以上のS級で審判出席日数が多い方。毎年、愛知陸上競技選手権大会で表彰。

- 期日 平成24年7月15日(日)
場所 瑞穂公園陸上競技場

- 受賞者 榊原 茂(名)
斉藤 徹(名)
三浦 豊徳(名)
高柳 鈺二(名)
外山みな子(名)
川浪 泰郎(西)
本間 順子(西)



○愛知陸上競技協会特別表彰

- 期日 平成24年7月15日(日)
場所 瑞穂公園陸上競技場
日本記録樹立選手 市川 華菜(中京大)
(4×100mR 43.39 第4走)

編集後記

オリンピックが終わり、国内大会のハイシーズンとなった。一般財団法人化もスムーズに移行し、本協会の役割がますます重要になってきた。ジュニア・ユース大会、ウィメンズマラソン、全中等へ向けて一層の一致団結が望まれる。

編集委員

- 大西 敏功 小坂 拓 榊原 英司 寺尾 健
外山みな子 新見 精三 西垣 完彦 野口 一昭
横田小百合